

企業・団体ヒアリング実施状況

1. ヒアリングシート回収状況

(1)ヒアリング依頼【企業・団体】数：70

(2)ヒアリングシート記入【企業・団体】数：52

2. ヒアリング実施状況（参加状況）

ヒアリング参加【企業・団体】数：45（予定1）

日程	午前	午後	夜間
3月5日(月)	NPO 東京雑学大学	NPO 体育協会	NPO 生活企画ジェフリー ワカズ・コレティブ ちろりん村 青少年育成会「にしはら」
3月8日(木)	武蔵野大学 東京大学	NPO 多文化共生センター 文化芸術振興会	私立幼稚園連絡協議会 学童クラブ連絡協議会
3月9日(金)		西原自然公園を育成する会 東大農場・演習林の存続を願う会 NPO 循環型地域社会研究会 西東京 菜の花エコ・プロジェクト 環境サポーターはちどりの会 NPO サポートハウス年輪 NPO 移動サポートひらけごま (株)ケアワーク北多摩 (株)ニチイケアパレス	歯科医師会 社会福祉協議会
3月12日(月)	商工会	田無警察署 西東京消防署	
3月13日(火)	ふれあい広場	シルバー人材センター (株)エフエム西東京	
3月14日(水)	西東京青年会議所	西武鉄道(株) 西武バス(株) 関東バス(株)	東京みらい農業協同組合 農業体験農園「きたっばら」
3月15日(木)		保育園保護者連絡協議会	
3月16日(金)	SiGE アルファテック(株) (株)小堀建築設計事務所	市民協働推進センターゆめこらぼ NPO 西東京 NPO 推進センターセブロス	
3月19日(月)		小学校 PTA 保護者連絡会	
3月23日(金)		医師会	
4月24日(火)		障害者福祉をすすめる会	
5月2日(水)		西東京市消防団	
5月30日(水) (予定)	シチズン		

3. 比較的共通した意見等（主なもの）

(1)市を取り巻く現状認識として

- ・少子高齢化による働き手、支え手の減少
- ・転入転出によるコミュニティの希薄化（防犯面などの安全性の確保）等

(2)西東京市の良い点・改善が必要な点として

<良い点>

- ・交通利便性が良い（都心へのアクセスの良さの割りに緑が多い）
- ・人がやさしい
- ・市民活動が活発、市役所との良好な協調関係
- ・人口が増えている（若年層も）
- ・環境が良い（緑、交通、市民）等

<改善が必要な点>

- ・市として特徴がない、目立たない、目標がみえない、メッセージ性がない
- ・道路・交通環境整備について（歩道のない狭い道路、南北の移動）等

(3)活動運営上の課題として

- ・運営を担う人材確保が難しい
- ・資金難（事業運営）
- ・活動拠点・施設が足りない等

(4)まちづくりに対して

- ・市の特徴、強みを活かした方向性をはっきり打ち出すべき
（子育てしやすいまち、若者の暮らしやすいまちづくり等）
- ・農と食（食育）のまちづくり
- ・歴史・文化を活かしたまちづくり
- ・人と人がつながり、人が育つまち
- ・安全、安心のまち（防災、生きがいを持って暮らせる）等

(5)活用すべき資源として

- ・東大農場、いこいの森公園、アニメ、大学、市民、居住環境の良さ等

(6)市民参加のまちづくりとして

- ・協力できること、やれることは積極的にやっていきたい
- ・市民の力を活用し、地域力を高めて行くことが必要不可欠
- ・発展性ある活動環境づくりとして、団体と団体等つなげてくれる仕組みづくり
- ・行政のかかわりは必要不可欠なので、庁内の横断的な組織連携が必要等

詳細は別添の「企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ」資料をご参照ください。

4. 意見等の取扱いについて

企業・団体ヒアリングにおける意見等は、今後市民意識調査、まちづくりシンポジウム、まちづくり市民ワークショップ等での意見と合わせ、総合計画策定審議会、庁内検討委員会及び事務局で、基本構想（案）・基本計画（案）への反映を検討する。

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(1・1・創造性の育つまちづくり)

教育 / 文化 / スポーツ(1)				
	西東京市小学校PTA保護者連絡会	西東京市私立幼稚園連絡協議会	西東京市学童クラブ連絡協議会	西東京市保育園保護者連絡協議会
1) 主な事業や活動内容	活動エリア:西東京市内の各小学校学区内 学校によって取り組み方が異なる	活動エリア:西東京市内及び近隣(通園区域) 活動内容:各園幼児教育 預かり保育会)14園の私立幼稚園代表で構成された団体 「子育て支援講演会」、「西東京市私立幼稚園サッカーリーグ戦」の開催 「西東京市私立幼稚園教職員研修会」の実施 他	活動エリア:西東京市内を主に、三多摩地域への会議、全国各地での勉強会に参加 活動内容:市内30か所の学童クラブ父母会が集い、より良い運営、入所、子供の学童生活が送れるよう会議、集会、対市懇談会等を実施(父母会からの会費で運営) その他、被災者への募金活動、会員全体でのこどもまつり開催	事業・活動の地域(エリア) 西東京市にある公立保育園(17園)と私立園・認証保育園 活動の内容 毎月、保護者からの要望をまとめ、市の保育課と保育行政について交渉している。各園の保護者会は夏祭りやお楽しみ会等を園と協力して実施
2) 良い点・改善が必要な点	改善が必要な点: 南北の交通の便が悪い。学童などの集まりへの行き来に不便 世代間の交流が少ない(育成会など)	良い点:市には公立の幼稚園はなく、この協議会自体が連絡を密にとれ、市(子育て支援課)との連携も良い。 改善が必要な点:「保護者負担軽減補助金」の「入園料」についての補助金支給	良い点:市内にある学童クラブに入所している会員の住んでいる街。市役所に足を運びやすいのが利点	良い点: ・都心から比較的近いので、子育て世代の流入増加 ・小金井公園などの緑も、商業施設も駅前に充実し環境はいい ・田無駅前は市役所、図書館、公民館などが集まっていて便利 改善が必要な点: いこいの森公園はあるがその他地域に公園が少ない。あるのは団地の公園ばかりというような印象。 保連協のアンケートでも公園の要望は多い。駅前の認可、無認可は園庭がないので、公園があるかないかは非常に重要。
3) 現状認識・対応	地域社会の役割を担う人材が減り、地域の活力が落ちている。PTA活動は停滞気味で、保護者、先生の中に意識のギャップがある。 子どもの親への負担も大きくなっており、先生の対応にも不安を感じる。 子どもの放課後の過ごし方、居場所についても問題がある。 ちょっとした時の子どもの預け先があると助かる。 生徒数、クラス数が増えた学校では、会合で教室が使えなくなっている状況にあり、地域格差・PTA活動の衰退が心配。 発達障害の児童が増えているが、学校側、教育相談室の理解、連携が足りないのではないか、現実には、差別や偏見、親の苦悩があることを理解してほしい。	少子高齢化における園児減少。それによる保育環境の悪化を危惧している。良質な環境を確保していきたい。	保育園、学童クラブの需要は増えている。これは、働く親が多い市ということになり、子供たちを安心・安全に預けることができて初めてきちんと働ける環境が整う。待機児が多いことは問題である。学童クラブは子育て支援、就労支援の側面が大きい。生活の場、子供の健全育成の考え方もあり、市としてどちらに重きを置くのかスタンスをはっきりして欲しい。それによって市の対応も変わってくるのでは	・子育て環境の整備に力を入れてくれていると感じるが、まだまだ十分とは言えない ・ピッコロ広場ルピナス(子ども総合支援センター)などは利用者も多く評判も良い。 ・土日開放型の施設が市に2つしかないのは少ないのでは? ・学童保育など施設の地域のレベル差が大きい(新しい・古い) ・東日本大震災による放射能による食の不安の声が多い ・民営化した保育園に関しては、評判はいい
4) 活動運営の課題	人員の確保が難しい。PTAに関しては1年限りの関わりで終わることがほとんどで、学校・地域社会で長期的に何らかの役割を担い続けていくのが難しい。	園児減少による各園の経営・運営への圧迫の中で、いかに子ども達のための環境を整えていくか。 (幼稚園教諭など良い人材の確保も含めて、募集しても集まらない傾向にある)	学童クラブの指導員の職離れが問題。(5年で契約切れ、その後は再試験で採用、キャリアも給料に反映されない、職員が安心して働く環境にない)。命を預ける先生方が正職員ではないことが問題。質の向上を図るべきである。	保連協の活動を負担と考える保護者が多いので、役員になりたがる人がいない。 (仕事、子育てでできない、平日の会もあり出席できない)
5) 市のまちづくりに関する認識・課題		子ども達の環境整備をしっかりと重点的にやってほしい。(公園、遊び場、遊具、グラウンド、コンサートホール、病院、他) * 共働き家庭に対する支援に偏っていると感じる。専業主婦の人たちにも配慮して欲しい(子育てをしている母親を理解して欲しい、預かりなど)	「子育てのしやすい町」というイメージを打ち出している割には、職員も施設も含めて充実していないと思う。 「ひと・もの・ことが育つまち」であれば、人員超過している学童施設の増設、職員の労働環境の整備などももう少し踏み込んで変えていくべき	・ひばりが丘、田無については便利だと感じる。保護者からは都道の整備(道幅など)、保育園周辺についての信号機の設置についても要望が多く、市からも働きかけをお願いしたい。 ・いこいの森でのお祭りも子育て世代の多くが楽しかったと感想。
6) 地域活性化に関する市政運営	[市として力点を置くべき点は] ・子育てのしやすい環境(スウエーデンでは、社会・地域で母親を助けようという雰囲気がある) ・高齢者が地域で暮らし続けることが出来る環境づくり(在宅福祉・医療の整備) ・子どもの問題も大人の問題も、個別ケアを基本とすることがよい ・具体的な防災対策の整備(小学校は避難所) ・野球などのグラウンドが少ないので確保 [イメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 緑の多い町並みが整って行くような具体的な仕組みを検討 [活用すべき資源やPRできる点] 都心に近いにもかかわらずのんびりした感じが残っている点	[市として力点を置くべき点は] 大きな企業の移転、転出による税収減少や、消費支出の近隣への流出防止が必要 [イメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 安心して子育てができるまちを、これまで通り実現(子どもを一人多く産む余裕ができるような) [活用すべき資源やPRできる点] 著名人、スポーツ選手、特産物、おまつり、田無神社、総持寺、そして東大農場の有効利用	[市として力点を置くべき点は] 子育て支援全般 [イメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 子供たち(保・幼・小・中)全体が対象のお祭りなど集う機会を作る [活用すべき資源やPRできる点] 子育てを真剣にしている親と子供たちは西東京市の素敵な資源(資源は人)	[市として力点を置くべき点は] 子育てサービス(保育園を含む)の充実。 将来を見据えたエコロジー、自然エネルギー利用 [イメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 宅地、農地も多く、消費者と生産者の交流など子供の食育。 [活用すべき資源やPRできる点] 東大農場との連携 子育てサークル(趣味は人気がある)、NPOとの協働 まちづくりの将来イメージについて 食に対するアプローチし、それとエコロジーを合わせたまちづくりが良いのでは(ゴミの減量、健康にいい、子供にやさしい)
7) 市との関係(支援や連携等)		・子育て支援課、園独自で地元小学校との連携がとれている ・のどか(子ども家庭支援センター)と共催で「子育て支援講演会」 ・虐待や障がいについての会議にも参加	今まで以上により良い子育て環境を協働して作ってきたい。それには要望を出し続けた内容に関しては実現してもらいたい。今もいい関係ではありますが。 要望だけ言う団体であってはならないと思う。みんなで意見を言える場を設けていき、できることを取り組みたい。	病後児保育、延長保育などは、サービスを拡充するだけでは解決困難で、インフルエンザの時期に母親(父親)が休みやすい環境づくり、8時までの残業は少なくするなど、社会全体での取り組み(子育て応援都市)が必要であり、働きかけを求め。 病後児保育は時期が限られ、それ以外はがら。NPOなどに任せてもいいのか 延長保育もどこまでやるか、きりがいい

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(1-1.創造性の育つまちづくり)

	教育 / 文化 / スポーツ(1)			
	西東京市小学校PTA保護者連絡会	西東京市私立幼稚園連絡協議会	西東京市学童クラブ連絡協議会	西東京市保育園保護者連絡協議会
8)他の企業や団体との協働・連携		子ども達の健全育成と保護者支援を基本的な目的として活動を実施している。 現在は、協議会メンバーのみでの活動なので「できる事」の範囲については限界がある。これまで、ライオンズクラブに幼稚園サッカーリーグ戦の後援を頂いている	[貴団体の基本的な考え方及び連携等の課題] 子供たちにプラスになることであれば喜んで連携 [これまでの実績や現況] いくつかのNPOや、市民団体の後援や、リーフレット配布などを行う。 「こどもまつり」に参加していただいている。 [今後の可能性] 今まで以上に連携を強めていく。(市につなぐ部分を作ってもらいたい)	[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 保護者団体なのでNPO市民団体に対して働きかけを良いと思わない参加者もいる。(NPOは企業協賛の場合もあるので) [これまでの実績や現況] 「子ども劇場」、「西東京アミーゴ」とは連携協賛等している。 [今後の可能性] 子育てサークルさんの方がコネクション、機動性ともに優れていることが多く、交流すればいいと思うが、保護者にその余裕がない。
9)今後の新しい展開・取組み		下記の組織や団体等との情報交換をしていきたい ・小中学校、児童館、保育園等との連絡調整・連携 ・防犯、防災組織との連絡調整・連携 ・地域との連絡調整・連携 地域の子育て支援センターみたいな機能も持てればというイメージ	毎年、対市懇談会という形で課題を共有している。毎年同じ内容を出さなくていい形にしていきたい。	あまり新しい活動は予定されていない。 今後、幼保一元化が進むのであれば、それに注視していきたい
10)西東京市への期待と注文	<ul style="list-style-type: none"> ・本当の意味での協働を進めるための体制づくり、意識改革を進めなければならない。 ・PTAの活動支援に関して、行政(教育委員会)の積極的な関与が必要である。 ・子どもの権利に関する条約の制定作業がとん挫しているが、進めて欲しい ・給食の放射線監視(測定)など、より安全安心に子育てを出来るまちを目指して欲しい。 ・市にある近くの農場や、食を提供してもらうのはよい。 ・市民参加については、ちょっとだけ手伝える参加、簡単に受け入れる場があって欲しい(PTAの時期はできなくても、子どもの手が離れればできる) 	<p>今、一番考えなければならないのは、日本の未来を作る「子ども達」のことを第一に考えて欲しいということ。子ども達を安心して産んで育てられる環境、「もう一人育てようか」と、思えるサービスを提供してほしい。</p> <p>共稼ぎで、金銭的に潤っている家庭よりも、厳しい中で自分の力で子ども達を手元に置いて頑張っている家庭について、もっと理解(補助)がほしい。</p> <p>「子育て支援」は決して親の「就労支援」であってはならない。今回の話は、子育てをしながら、いろいろな選択肢があると良いという話ではないか。</p>	子育て、子供たち ... 子供に関してのすべてのことが安全に行えるようなまちづくりをお願いしたい。	<p>子育てを社会全体で担っていくというビジョンの設定。保育園の増設、待機児童対策。子育て交流サークル(施設)の充実。ファミリーサポートはサービスが制限されているので(調理はしないなど)もう少し使いやすくしてほしい。</p> <p>病後児保育については、NPOによるサービスを積極的に取り入れ、費用を一部補助するなどでもできると思う。</p> <p>Q.この市が選ばれるにはどういった力をいれたいか 都心から近いし、武蔵野の自然が残る。職員の方も親切。</p> <p>Q.人から、西東京市からどんなところと言われたらどう答える 西東京市は、子育ても割と熱心だし、悪くない。但し、目立たないのでPRを。</p> <p>これからは、話し合い、意見の場を設けて、改めて考えることが大切。</p>
総括)重要視しているポイント	PTAに参加すること、人員を確保することが非常に難しくなっている。また、学校によって体制や規模、考え方もかなり異なっており、よりよい学校教育環境、子育てしやすい環境を作るためにも、行政(教育委員会)の積極的な関与、支援が必要	「子供が育つ」にはどうしたら良いかを第一に考えて欲しい。そして、子ども達を安心して産んで育てられる環境、「もう一人育てようか」と思える社会になって欲しい。	学童クラブはどうしても優先順位が低くなってしまっているが、指導員の待遇、職離れの問題など、市の学童クラブへのスタンスをはっきりさせて、子供が育つ環境、預ける環境を安心できるものにしてもらいたい	子育てサービス(保育園を含む)の充実と子育てしやすい環境づくり

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(1・2.創造性の育つまちづくり)

教育 / 文化 / スポーツ(2)				
	武蔵野大学	東京大学	特定非営利活動法人 東京雑学大学	亜細亜大学
1) 主な事業や活動内容	活動エリア:西東京市内に武蔵野大学・武蔵野女子学院中学高校・武蔵野大学附属幼稚園、その他、売店・出版会、産後ケアセンター、メデカルセンター等 女子大学から平成15年に共学になり、理系の学部ができてきた頃から市とのかかわりが増えてきた	活動エリア:西東京キャンパスにアジアセンタープラス学生で70~80名 活動内容:2010年3月までは東大農場、4月以降は生態調和農学機構 [設置目的] 耕地・緑地・林地からなる西東京フィールドをベースに、持続的な生態系サービスと調和する農林業と社会のありかたを探求し、今後の持続的・社会的移行に際して、農林業と農山村の果たす役割を明らかにする。	活動エリア:活動の主な地域は、市の公共施設が中心である。利用者は近隣市に広く及んでいる。 活動内容:生涯学習の機会を地域住民に提供することである 毎週一回の講義の実施(年50回)(年会費5000円) 「学報」の発行(年3回) 開学記念行事(講演会、シンポジウム、音楽会など)(年1回) その他、「公民館祭り」(毎年参加)、西東京市民フェスティバル等に参加している。 テーマは13分野、講師の都合でやるのが基本 / は当初は多摩学をテーマにしていた	活動エリア:武蔵野市 活動内容:「教育・研究」 学部(学科):経営学部(経営学科、ホスピタリティ・マネジメント学科)、経済学部(経済学科)、法学部(法律学科) 国際関係学部(国際関係学科、多文化コミュニケーション学科) 短期大学部(経営科) 大学院:アジア・国際経営戦略研究科、経済学研究科、法学研究科
2) 良い点・改善が必要な点	良い点:市とは友好的な関係を保っており、市庁舎とも1.3km(徒歩約15分)と近く情報交換も行いやすい。 改善が必要な点:事業により参加者が固定化しており、新風も必要か? 学生は在学期間があり2年くらいで参加できなくなり、引継ぎ、継続が課題	良い点:東大農場は移転問題を経て、西東京キャンパスとして残ることになり、これを活かしたまちづくり。中には、学生寮や歴史的に価値のある古い建築物も残り活用が期待できる 改善が必要な点:市と市民のみならず一緒にできる場が必要(われわれが中心になって進めるわけにはいかない) 場所の性格上、教育研究の場としての活用が基本であるという視点も考慮して欲しい(レクリエーションの場だけでない)	良い点:田無駅周辺の公共施設の職員の方の対応が親切 田無駅は交通上大変便利のため、参加者が集まりやすい。 改善が必要な点:毎回50~80名が参加する講義会場の確保(多人数を収容できる会場が少ない。このため有料の市民会館の利用が多い)(公民館は月1回くらいしかとれない/高齢者が増えた分、参加者も増えてきている)(武蔵野市のコミュニティセンターは第2木曜日押さえている。ライブでも見える)	
3) 現状認識・対応	・高齢者の一人暮らしに対し、ボランティア学生の巡回システム等の確立 ・IT(PC操作等)で悩んでいる家庭への学生の出張サービス ・子育て支援(地域社会全体での子育て)、福祉政策のさらなる充実(市民の経験者の抽出と協力依頼、専門家によるバックアップ) ・公開講座や地元とのかかわりを重視した歴史を持っており、今後もオープン化という方向で、本学の持つ力を提供していきたい	・敷地の中央を通り抜ける都計道の整備が動き出し、これを踏まえて、キャンパス整備計画を作成している。 ・特に、道路で分断される南側部分に関しては、市民に開放する方向となっており、市民(存続を願う会を中心に)の参加のもと、検討を進めている。市の方も「農業系のプラン」を持っているようで、連携できると良い。南側部分には学生寮を含む価値のある古い建物も残されており、保存、活用してもらいたい ・東大マルシェとして、収穫された作物の販売、レストランでの利用も含めた活用もある ・研究として農業/農村のIT化を取り組むことで計画している。 [ゼロエミッション農場化のイメージ]	高齢者の人口増加に伴い、高齢者の医療費軽減のためには、彼らが心身ともに健康であることが必要であり、社会参加することによって効果がある。 講義に参加し、スタッフと共に活動すれば、さらに効果は大きい。生涯学習の場、活動を市は積極的に支援してもらいたい。	グローバルな時代にむけて、違った文化・価値観を理解したうえで、よりよいコミュニケーションがとれる、国際社会で貢献できる人材育成に力を入れている。 (独自の留学制度、同じキャンパスで学ぶ留学生との交流、ネイティブ教員による授業や15か国の外国語教育など)
4) 活動運営の課題	・ボランティアにいくにあたって市のボランティアセンターを利用したが、支援の対応が遅いのではないかと気がした。 ・一時避難所として利用が想定されているが、授業時間(4000名)に災害が起きたときどうなるかという懸念はある。	一般開放しているが、広大なキャンパスなので、安全の確保が課題(立ち入り禁止の部分も多々ある)	生涯学習活動に携わるスタッフ、講演担当者もすべてボランティアであり、収入は低廉な会費と寄付(有志の)に頼るので、財政的なゆとりがない。せめて交通費の実費くらいは提供したい。市からの多少の財政的支援を考慮していただきたい。 運営スタッフは若い人でも60歳(仕事を持つ人は難しい)	日本私立学校振興・共済事業団「学校法人活性化・再生研究会」が提示する教育研究活動のキャッシュフローを十分確保・教育研究水準の維持向上のため、学外からの資金確保に取組む体制・制度の整備
5) 市のまちづくりに関する認識・課題		これまでは、ほ場系であったが、新たな学問分野も取り込み、食の安全/安心のセミナーなども開催して一緒に考えるようにしたいと思っている	・合併によって公共施設の利用が以前より大変便利になった ・毎月「市報」に掲載される市民による催物の案内は年3回以内に限られ、小さく目立たない。改善してもらいたい。 ・活動について情報を流す方法も検討していく必要があるのでは ・チラシは、隣接する市にはおくことができないことになっている改善できないか ・NPOなどの活動がわかる。IT化の活用は今後でてくるのでは。 (東久留米市の「くるくる」というコミュニティサイトはあると便利)	本学は、隣接する武蔵野市に立地するが、教職員・学生の居住、上台小学校への学校サポートボランティアの協力、西東京市民まつりへの吹奏楽団などのパレードへの参加など関係が密接。また、武蔵境にはない広い会場・多くの集客に、影響力と効果を及ぼす範囲がかなり大きいと感じている。
6) 地域活性化に関する市政運営	[市として力点を置くべき点は] 福祉施設は充実しているため、年配者には、市民レベルでのコミュニケーションの場、若年層には安全、安心して生活できる場の提供。 [イメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 文化人も多く、向学意識の高い方が多いので、市と大学が連携した安価で、近い場所での学習システムを構築(市の売りにする) [活用すべき資源やPRできる点] ・各大学の知的空間的資源の活用。 ・市民の技術、智慧・知識の発掘と活用。 ・政治、経済の中心地に近接しているが、災害からの安全地帯、良好な住環境。	施設内でファーマーズマーケット、新しい形のレストランを展開(新しい21世紀型の農業をアピールできるもの)	[市として力点を置くべき点は] 高齢者の養護施設として、他市に誇れるような「緑寿園」の活用 [その他] 隣接他市と、医療や公共施設の利用を相互で利用する方法を考えて欲しい。 (例えば健康診断、公民館などの借用、催物のチラシの配布など)	立地していないので、意見はなし

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(1・2・創造性の育つまちづくり)

教育 / 文化 / スポーツ(2)				
	武蔵野大学	東京大学	特定非営利活動法人 東京雑学大学	亜細亜大学
7) 市との関係 (支援や連携等)	各種市の行事への学生ボランティアなど支援 / 参加、学校内の施設などの提供・開放、市とのインターンシップや人材育成、提供などの連携など多数の実例がある。 図書館は市の紹介があれば利用可能。キャンパスは講座利用者やイベント時のみ開放	・火曜日～金曜日の昼間は、基本的に開放され中に入れる。 ・農業博物館が中であり、市民の人に管理してもらっている ・今回の計画では道路南側部分はかなりの部分が開放されると思う。	市側でも積極的に会場確保や財政支援を考慮することが、高齢者の医療費の軽減につながると考える。 私どもの行う講義などの活動には近隣他市の住民も多数参加している。他市の住民も交えた市民の情報交換によって、他市との連携が図れ、市の職員も参加した交流の場づくりも考えられるのでは	・学校サポートボランティア(上向台小学校) ・「西東京市民まつり」に吹奏楽団・軽音楽部・TANZが参加協力 ・「ヴィーガーデン夏まつり」に吹奏楽団・軽音楽部・ガムラン研究会が参加協力、8名が運営協力 その他、ボランティア募集の案内(チラシ・ポスター)の掲示・配布
8) 他の企業や団体との協働・連携	[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] ・大学の教育研究の成果、知的コンテンツ、施設を社会ニーズに合わせ、社会に還元。 ・教職員、学生、卒業生とかが産・官・学と連携・推進。 ・本来の教育研究業務の多様化による余力の低下。 ・オープンにすることによる自己責任の考え方も必要 ・無料講座と有料講座の切り分けと、そのことに対する利用者の認識とPR [これまでの実績や現況] ・各種委員会・協議会への参加、依頼講義の出前、学生派遣などを実施 ・市の方、公民館の方などを講師にきてもらって講義を依頼 ・市の畑を借りて、残飯などでリサイクル肥料を作って、エコ野菜を収穫した [今後の可能性] ・長期インターンシップ、学生とのコラボ等を通じての知識、企画力、労働力の相互的提供～ 小・中・高、一般企業、公的事業所	・市民とのかかわり自体、研究の一貫、研究の場として考える。 ・新しい公共の提案の場として、活用してもらいたい。そのテーマ例として...食と農 / 都市型スマートファーム(広い意味の持続性) ・昔の寮なども、会議室として活用できるのでは(個人的意見だが)	[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 他の団体や企業と連携する場合、相互の人的信頼関係の構築と、出合いの場の確保が重要である。 [これまでの実績や現況] 理事長の私が、3年前から「きらっとシニアクラブ」の会員となったため、相互の情報交流があり人的関係も広がっている。 [今後の可能性] 必要な人材(経営能力や特殊技術能力のある)は市内にも多くいるはずであるが、出合いが少ない。どうしても知人、友人の範囲で過ぎてしまっている。 講師の人材バンクによるデータ化については、個人的にお願いしている講師の方を、市に人材バンクとして登録 / 公開するのは賛成できない。講義の内容を、専門的なものから生活にシフトするのは賛成である。ただし、講師のルートがわからない部分がある。	[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 地域活性化に関わる活動やボランティアなど、学生の成長に資する活動に参加協力 [これまでの実績や現況] 上記イベントなどの参加協力 [今後の可能性] 地域活性化イベントへの協力は、日程と学生団体の意思が合えば可能。 調査などの委託事業、市民講座の開催などは、その内容と日程、人材など状況による。
9) 今後の新しい展開・取組み		市の農家の方々や市民の知恵をもらいながらコラボレーションすることは興味深い。	16年余続いてきた東京雑学大学の活動も、未永く続けていくためには、後を引き受けてゆくスタッフが必要。スタッフは能力や技術だけではなく、人柄が重要であることを痛感している。 経済的に安定している人でないとできない部分がある。	特になし
10) 西東京市への期待と注文	・さらなる相互的相互協力事業の進展、充実 ・インターンシップ学生の派遣受け入れ ・市民の大学施設の利用推進への市の援助 ・運動施設の定期的借用(学生の運動部が練習場所に苦慮している) ・西東京市民を受け入れられる、寄附講座の実施(市民から問い合わせあり) ・シルバー人材センターへ植木の剪定をお願いしている。その他、安全の見回りや駐輪場の整備など、こんなことができるというセンターみたいなものがあればお願いしたい。 ・市と市民と大学がうまくつながるような形ができると良いのでは(いつも同じ人や少数の人、特定の人的なつながりに限定) (目の前に現れた人が、市民なのかという疑問もある)	道路南側に関しては、われわれが中心になってプランづくりを進めるわけにはいかない。市が中心になって、フレームや場を作ってほしい。	現在、多くの自治体で「子育て」によりお金をかけるようになったが、地域に住む高齢者が子供や、その両親の負担にならないよう、逆に助けになるような施策も必要と考える。については、次のことを提案する。 ・中高年者も生涯学習の支援。社会参加への支援(働かせたらいいのではないか) ・高齢者や一人暮らしの人の緊急時の対応。民生委員のみではなく、市として状況を把握し、電報やIT利用。(セコムのような企業では経費がかかる)	特になし
総括) 重要視しているポイント	大学の特色や専門性を活かした中で、協働 / 連携を進めていきたい。そのときに、うまくつなげるような場や仕組みなど形が作れると良い。(ここで、このようなニーズがある。このような能力を持ったひとがいる。ここにいけば解決できるといったようなもの)	市民とのかかわりそのものを、研究の一貫、研究の場として考えている。新しい公共の提案の場として最大限に活用して、われわれの目指す研究と協働でより良いものにしていきたいと考えている。	高齢者を社会参加させることで元気にする。その一つとして、生涯学習の場がある。 活動の障害として、会場の確保、今後の継続性として、財源や次世代のスタッフの確保が課題	貴市と関係も深く、イベントや地域活性化に関わる活動やボランティアなど、学生の成長に資する活動に参加協力したい

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(1・3・創造性の育つまちづくり)

教育 / 文化 / スポーツ(3)			
	NPO法人西東京市体育協会	NPO法人西東京市多文化共生センター	西東京市文化芸術振興会
1) 主な事業や活動内容	活動エリア: 全国 / 体育協会加盟連合団体約30団体(競技者6000人) 活動内容: 競技大会などの運営、体育施設の管理運営等を通して、体育及びレクリエーションなどの振興、市民の体力向上及び健康増進を図り、豊かな市民生活の実現に寄与する。 実際の運営は各団体がそれぞれ独立して実施。 会費: 2万円 / 団体(受益者負担で個人でとることも考えている) その他、スポーツまつり、市民まつりに参加・協力	活動エリア: 基本的には西東京市 活動内容: 日本人、外国人の枠を越えたふれあいのある生活ができるような多文化共生社会の実現を目指し、以下の事業を展開。 ○地域に在住する外国人支援: 日常生活の相談、支援ボランティアの拠点、多言語情報提供(市報等の多言語翻訳、災害時多言語ホームページ情報)、日本語学習支援など ○多文化理解の促進: 留学生ホームビジット・ワークショップ、多文化サロン、子連れde多文化体験、市民まつりへの出店など ○活動の活性化とネットワーク作り: 各種の養成講座、NIMIC通信、広報誌など 市に3300人強ぐらいの外国人在住。人口比で1.7%弱	活動エリア: 西東京市及び近郊 活動内容: 自主事業「西東京市ニューカマーアーティストフレッシュコンサート」、「シンポジウム」、「市民と文化サロン」(交流) その他、会員の意見を聴取し、行政への提案・提言 会報の発行
2) 良い点・改善が必要な点	良い点: 体育施設の増設 改善が必要な点: 陸上競技場の開設 施設の数が足りない。多目的施設をみんなで取り合っている状況	良い点: 1. 市内・外での移動が容易(拠点となる公民館、庁舎) 2. 良い協調体制が出来てきている(行政 NPO法人にて確立) 3. 市内・近隣に大学があり、留学生との協力が得易い。 改善が必要な点: 1. 教育・学習としての場(活動場所、保管場所) 2. 「子ども日本語教室」の行政サポート体制(会場、教材費等) 3. 多文化共生のサロンとしての場の提供(手狭な感がある)	良い点: 児童に対する施設・環境の充実 市の肌合いが非常に優しい印象がある
3) 現状認識・対応	・高齢化社会を迎え、高齢者の体育向上をどのように図っていくか ・都連から、国体に向けてジュニアの育成について補助金をもらっている。スポーツを始めのきっかけをつくることはできる	西東京市を外国人にとって住みやすくする政策を導入することが、日本人にとっても住みやすい環境となる。特に外国人がいち早く生活に要する日本語能力と文化や習慣について理解する力を育むことを提案する。(コミュニケーション力を高める) 1. 日本語学習機会保障施策 外国人登録時に日本語レベルを確認して、希望者に無償で初級の日本語学習を受けられる研修所を創設する。 2. 日本語が不自由で介護が必要なお年寄り施策 通訳派遣を市にて受益者負担とならないような手段にて制度化 3. 子どもの頃から多文化の体験 市内の小中学校向けに多文化体験カリキュラムを作成して、必修とする。(グローバル社会の一員であることを実体験)	・若い人達がなじみやすく、住みやすい環境づくりを具体的に目標とし、女性にとっても活かしやすい施設の設置。(メンバーは高齢化している) ・合併後10年経っても、文化面においては旧田無、旧保谷の垣根は根づよく残っている
4) 活動運営の課題	・当団体は市の補助金で事業を行っており、補助金の増額 ・ジュニアを教えるのに3つの問題がある。 施設の問題、指導者の問題、人集めの問題	1. 中長期に対してNIMIC事業の継続の保障(財政面) (現状から収益事業を行うことが難しいことから財政基盤の整備が困難) 2. 人材の確保と育成の困難さ (NPO法人として中堅の役割を担う層が確保できない。その理由の一つとして、報酬の問題があると思われる)	文化予算に関して、市との話し合いで提案しても前進がない。(文化は目に見えないし、結果がすぐでないもので、理解してもらるのが難しい)
5) 市のまちづくりに関する認識・課題	2庁舎体制の解消により職員の作業などが削減できる。また、魅力ある商店街の振興に努めてもらいたい。	合併して10年経ったが、本当の意味での合併効果は不明。 今後は「新しい公共」の実現に向け早期にその施策を実施できるか否かで、そのポイントは市民に見えるサービスと評価できるわかり易さではないか。 市としての市民へのブランドは「福祉」都市、「健康」都市の充実に加えて既にグローバル時代に構築しておく必要がある「多文化共生社会」都市の実現で豊かな都市をめざすことである。	目指すべき市のイメージが見えない。したがって、現状認識も不足している。 市として、若い人に特化したイメージを打ち出してもいいのか
6) 地域活性化に関する市政運営	[市として力点を置くべき点は] ・田無駅南口開発と西武柳沢駅北口の開発 [活用すべき資源やPRできる点] ・田無駅北口の「シンエイ動画」のキャラクターを使用し、北口商店街の活性化を図る。	[市として力点を置くべき点は] グローバル時代の都市として幸福都市を構築して、市民の挨拶、笑顔、協働社会への積極的な参加意識を持った住民への「意識改革」と、その財政面でのバックアップ [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 行政 NPO - 企業が三位一体または2者協働によるブランド事業を創設。 例えば、グローバル地域住民の語学能力をバイリンガル化、トリプル化することによる世界に開かれた、西東京市のイメージを創る(横に広げていく)。そのイメージの基盤事業をブランド化し、必要なITを身に着けている市民。 [活用すべき資源やPRできる点] 1. 有形資産 市としての文化財、環境を近隣区・市と連携した地域遺産登録等をして観光ルートを策定 2. 無形資産 市民の生きたノウハウの活用	[市として力点を置くべき点は] 若年層の暮らしやすい魅力あるまちづくりと、高齢者にやさしいまちづくり。若年層と高齢者の共存・共同 [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] キャッチフレーズ的には、「若者と若いころを持った人のための西東京市」 [活用すべき資源やPRできる点] あえて挙げれば、「アニメーション」の製作会社が多い 積極的に活用し特区化する。同時に音楽関係も同じ(芸術家も多く住んでいる)(多摩六都など近隣市を巻き込んで、展開することもいいのではないか)

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(1・3・創造性の育つまちづくり)

教育 / 文化 / スポーツ(3)			
	NPO法人西東京市体育協会	NPO法人西東京市多文化共生センター	西東京市文化芸術振興会
7)市との関係 (支援や連携等)	市が行う体育事業の連携をさらに深める ・健康とスポーツとまちづくりについて、市がスポーツに求めるものは何なのかということ を明確化するべき。武道は子弟関係があり、ルールを守ることを教えるには良い。 ・教育委員会との接点はあまりない。学校は対応が難しい一方で、学校の施設の有効活用が今後の方向であることも間違いない。 ・指導者の問題は講習会を実施している。今後は、競技別の指導でなく、指導者とはこうあるべきかということをお願いしたいと思っている。横断的な指導者、体育協会だけでなく他の団体との連携も考えられる。(市が中心に連携できるような場、企画をつくってもらえとありがたい。横のつながりはとりにくい。例えばスポーツと文化は連携しづらい)	グローバル社会に於ける多文化共生構築を下記の観点にて協働可能 1.教育 生活者としての日本語能力の向上と文化習慣を理解する力 子どもの教育	
8)他の企業や団体との協働・連携	[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 補助金の増額 [これまでの実績や現況] 各大会の開催により、参加者が増大している [今後の可能性] スポーツ振興課と連携を図りながら市民の体力向上に努める	[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 現状でも、行政との協働は図られているが、予算が付かないためにその継続に苦慮する事業がある(例えば、留学生とのワークショップ、企画提案事業、公民館事業など) [これまでの実績や現況] ○市主催の養成講座 / 市の企画提案事業 / 公民館事業 [今後の可能性] 行政との連携・協働事業は推進する。また、これからは、新しい公共(北多摩散住地域支援事業)と連携する 「新しい公共 = 安上がりの公共」のイメージについては要注意	[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 市民の文化・芸術活動の支援・交流、そして行政への提言 [これまでの実績や現況] 自主企画の実施、行政への提言 [今後の可能性] 、 の拡大と行政とのリンク
9)今後の新しい展開・取組み	指定管理者に向けての取り組み	現状の事業、イベントの継続と新しい事業とイベント施策の実施によるNPO法人全体事業の推進。特に、新しい公共事業への施行により課題の発見と対策を考えていく。	現実問題としては、会員の高齢化(若い人達は、市街で働いており、普段の文化活動の積極的参加が困難)。この課題の解決法を提案中。
10)西東京市への期待と注文	下保谷、北町地区の道路整備(歩道) ・市にお願いしたいのは、既存スポーツ施設の跡地活用(例えば都立大などの移転時)などを、都にお願いして欲しい。(壊すのはもったいない。チャンスを逃さず活かして欲しい)	NPO法人の観点で新しい公共に向かって 1.少しでも有償ボランティアへと変更し、個人負担を軽減し参加意欲を掻き立てる方策を探りたい。 2.そのために、行政内に「市民ファンド」組織を創設して、NPO等の新規上又は財政上の負担軽減対応が出来るようにできると良い。 機能は行政、NPO、企業との協働・連携のブランドマッチング、事業補助金の助成を指導する。市民の無償資産で有効なもの登録と活用 なお、このファンドの財政面の確保は、市民、企業からの寄付金、NPO法人委託金の利益分の戻入金を財源とする。 3.市の組織化の利点は、信頼があり安心でき、広域の調査に長けている点。 専従のメンバーを確保し、質の高い活動を行っていきたい ○アニメのまちづくりへの可能性について アニメは、外国人が日本に関心を持つ入り口になっており、文化という面でも有効な資源。ただし、アニメは箱ものでなくソフト(イベント)などで展開するのがいいのではないかと	若年層の暮らしやすい魅力あるまちづくりと、高齢者にやさしいまちづくり。若年層と高齢者の共存・共同(設問(6)に同じ) (特に留意して欲しいのは、「市民」に解りやすい用語を使って表現してほしい) 子供への生演奏を聞く機会をもうけたりしているが、施設の問題として、子供達が音楽にふれあうための練習や発表の場を確保することが厳しい状況にある。これは、市や学校などの介在や理解、支援が必要である。
総括) 重要視しているポイント	スポーツ施設が不足しているが、新しいものでなくても、使えるものがある場合は、積極的に確保していくことが重要。スポーツは人づくりにもつながり、スポーツが取り組める環境づくりを進め、その支援も必要である。	本来、活動内容からいってNPOレベルの仕事としては大きすぎる。活動の継続性や質の確保を考えると財源確保や市の支援が重要である。その手段として、新しい公共の中に盛り込み、行政を中心に財源確保など仕組みをつくってもらいたい(専従メンバーの確保が必要。無償ボランティアは限界がある)	会員の高齢化に加えて、予算面、施設などの確保などうまく進まない面がある。その一つに、行政の文化に対する理解不足や支援が足りない面がある。今後の市の方向として、若者が舞台の表に立つアニメや音楽などの文化を活かしたまちづくりを進めるべき

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(1・4・創造性の育つまちづくり)

教育 / 文化 / スポーツ(4)			
	NPO法人生活企画ジェフリー	ワーカーズ・コレクティブちろりん村	青少年育成会「にしはら」
1) 主な事業や活動内容	事業・活動の地域(エリア) 西東京市内を主に、講師などは他地域にも出向く。 事業・活動の内容 講座セミナー講師、調査研究、相談など他、大震災支援事業チャリティー 事業・活動の規模 委託事業、補助事業、助成研究事業など各種あり その他の活動 関係機関と連携、西東京市と連携で東日本大震災による被害者支援イベント開催(昨年度2回)、「西東京市の女性の聞き書き集」発行等。 <u>人権尊重を理念に活動している。会員は他市区の方が多く、広範囲(全国的)に活動</u>	活動エリア: 西東京市内 活動内容 : 保育園給食受託(生活クラブ保育園ほむ給食の調理等:5,500食/年) 子育て支援事業(親子ひろば800組/年、子育て講座1,200組/年、出張保育100人/年、子育てイベント340名/年) 食育関連事業(子ども料理教室240名/年、食育講座50組/年、食育サポーター養成講座30人/年、食育イベント150組/年) ・その他、地域のお祭り、イベント等に参加	事業・活動の地域(エリア): けやき小学校区(小学生対象~地域住民600人) 活動の内容:(3本の柱) 健全育成活動 幼児から18歳までの青少年の地域での健全育成 非行防止活動 地域のパトロール 環境浄化活動 子ども達が安全・安心して暮らせるよう地域の環境作り(清掃活動、安全対策/たて看板・違法看板の撤去など) 広報活動 地域住民に青少年育成活動への啓蒙 その他、 育成会連絡会活動、西東京歩け歩け会、育成会連絡会研修会など
2) 良い点・改善が必要な点	良い点 : 以前より田無で自主グループ(10年)として活動していたため、仲間や市職員、関係機関との連携が取りやすく、地元の人たち地域の課題を共に解決できること。 改善が必要な点 : 「協働」のあり方について市職員の理解が足りない、または誤った理解のもと、言葉が独り歩きしているように思うので改善していただきたい(NPOと行政の協働は大事なテーマだと思います)。 <u>「協働」は、職員個人の対応は良いが、システムとして根付いていないと感じる。計画と実感にギャップがある(住んでよかったとは何をもって言っているのかが不明)</u>	良い点 : 公設の施設(児童館)が多く利用しやすく、無料で使用できる。 企画提案事業など協働事業ができる。 改善が必要な点 : ・公共施設の活用が充分なされていない(市民自治の観点で施設が管理されていない、利用者の利便性を考慮せずに運営。空き施設の活用がされていない。改善する行政との話し合いの場がない) ・NPO等の活用が十分でないこと。また協力的でないこと。また、NPO等の主体的な活動に対して予算がつくような働きかけがないこと。 ・子育て支援に対する施策が不十分、支援不足(子育て中の親子の居場所が積極的に進められていない/待機児対策が不十分/子育て支援活動を民間が自力でしなくてはいけない/子育てでの24H保育や緊急サポートを実施できていない)	改善が必要な点 : ・活動に際して、職員からのアドバイスがあるとよい <u>普通のしろうとの集まりで、理解・支援してもらいたいという気持ちがある</u> <u>普通の活動(補助金もらって...)と同等に扱われているのでショックを受けた</u> 活動費が補助金という形で、一方で地域のボランティアに頼るだけの青少年の育成では良くない。活動の支えとなるべき行政、職員が前向きに取り組んで欲しい
3) 現状認識・対応	時代の変化で言うなら、昨年の東日本大震災は見過ごすことのできない緊急支援を必要とした。そのため平成23年度事業計画に加えて、被災地の視察や訪問、交流の場、チャリティの開催などをおこなった。 <u>保守的な声が大きくなっている。(女性が社会進出したから職がなくなってきたなど)</u>	これまで在宅の母を支えるのを目的としていたが、子育て環境の変化の中で採算が合わず、本体事業からの持ち出しで子育て支援事業を行っているのが現状 活動を通して、特に出産後の親を支える機能が西東京市内に十分とはいえない。産後から就園前までの親子の見守りと支えを通して、顔の見える関係作りを目指して事業を進めていく。今後は親子ひろばに出てこない親のニーズに応えるために、24時間対応の訪問保育や病児、病後児保育、ホームスタートの仕組みを研究し、養成講座を開催するなど、子育て環境の整備を目指す。	子供を取り巻く環境の変化が著しい中で、ひとり親の増加や若年層母親の増加、地域の人たちと接触しながらない親たちへの係わりかたを模索中。 行政としてできることは何か地域と共に考えていくために場づくりが必要 <u>人と接触しなくても、パソコンなどですんでしまう世の中になっている</u>
4) 活動運営の課題	○事業運営・活動運営上の課題 人材の確保・増員:新事業のたびに市民参画を心がけ、仲間作りをしているがむずかしい。子育てで去っていく人もいる。 ミッションの伝達:理念を受け継ぎ、伝承はむずかしいが、形態を新たにした新生NPOとして育てていけたらいいと思うがそれも難しい。	事業運営の最大の課題は事業運営費の捻出。(参加費は無料か安く設定、人件費を参加費から捻出できず、本体事業より補填、公共施設は抽選が難しく、有料施設利用は高い) こうした中、次世代交替をするときに事業の継続が難しくなることは否めない現実。若年層の事業の担い手を養成し、地域での働き手が増えるような事業を創り出し、提案をしていきたい。そのための人材育成、研修、事業継続のための運営費の安定的な資金確保が課題。	個人情報保護法により情報が遮断され、地域の人たちのつながりがない。また、地域活動等の人材確保難や町内会などの地域の横のつながりがない一方で、行政としてつながりを地域に求めているようだが、行政自身が阻害している面もあるのでは <u>ゴミを個別に集めることも、実は、近所のコミュニティを喪失させている</u>
5) 市のまちづくりに関する認識・課題	西東京市は何を望みこの10年を経過してきたのか、市民には見えませんでした。そのアピールの仕方や具体的施策にアイデアがないと思いました。例えば「協働」はこれらの行政に大切なテーマだと思いますが、メッセージが聞こえてこないのは残念。 <u>実は、このまちにはいいものがあるのでは?それが何なのか聞いてみたらどうか?</u>	事業に関係する領域では、子育てしやすい街NO.1を目指したい。市民の力を集めて、他市(三鷹、武蔵野など)との比較から市にない機能を知り、実現のビジョンを具体的に示して、年度毎に見直しをしていくと良いと思う。 <u>子育てしたい街 = 人にやさしい街づくりをすすめていきたい。特に子育て・高齢者の「孤立」を予防するために年齢、性別を問わず地域で集い合い、支え合えるような拠点づくりを進められると良いと思う。</u>	都心より適度に離れ、多少自然が残る地域、住みやすいまちと考えている。 将来も、西東京に住みたい、「子育てのしやすいまち、地域の老若男女がお互いに気遣い思いやりがあるまち、老後も安心して暮らせるまち」と思い思われるまちづくりを希望する。 <u>小さなものを大切にすまち(個人商店など)になってもらいたい。</u>
6) 地域活性化に関する市政運営	・市がつくり出すべきものは、伝統、文化、市民性を大事に、市民が楽しめ元気になれるものではないかと思う。 ・若手職員の意見を積極的に取りあげる、職員のプロジェクトチームで提言するシステム作りなど、若いやる気のある職員さんに、市民と交わり作り上げる楽しさ苦勞を学んでほしい。(実際に苦勞した経験がこれから役に立つと思う) ・条例・規則は、読み方によっては広く読むことができる。そういう職員がどう育つか ・職員の能力の底上げが重要。職員は市民が育てる部分もある。NPOの活動に参加し体験することがいいのでは。	[市として力点を置くべき点は] 人が集える場所の設定[中学校区] コミュニティーカフェ、東大マルシェ、子供デイサービスなど地域の資源を活用して(場所、人、団体)をつないでいく仕組み、祭りの再生、郷土料理の普及など。 [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 健康都市宣言をする街として、心の健康まで含めた「まちかど保健室」を開設。 「子育てコンビニ」「子育てカフェ」、全園児対象の食育など 備災の街づくりとして大規模な避難訓練、子供とともに避難する体験。 [活用すべき資源やPRできる点] 東大農場、いこいの森公園、空き庁舎、空き教室、空き家、空き商店街、新設の箱ものでなく既存施設の活用。児童館の夜に見守り保育サービス。空き家でのお泊り保育、商店街で小規模保育園など * 普段会えない人とつながるような場所があると豊かな地域のつながりが出来る(そこにはファッション的な動きをする人材がいると集いたくなる)	[市として力点を置くべき点は] 市としてのステイタスづくり 子育て世代を西東京に呼び込めるかが課題(子どもをめぐる環境を整える事が大事) [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 安心して歩ける歩道づくり/安心して自転車に乗れる道路づくり 規則が優先されたまちではなく、安心して規則が守れるまちづくり [活用すべき資源やPRできる点] 東大農場の活用(さらなる活用を) ないところに配置していく姿勢で公共の建物の適正な配置に取り組んでほしい。高齢者の居場所づくり、子供たちと高齢者の交流が出来る場所が必要 (児童館、公民館が適性は位置で統廃合されることには疑問)

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(1・4・創造性の育つまちづくり)

教育 / 文化 / スポーツ(4)			
	NPO法人生活企画ジェフリー	ワーカーズ・コレクティブちろりん村	青少年育成会「にしはら」
7) 市との関係 (支援や連携等)	協働コミュニティ課など、「協働」が施策に具体的な事業化してきたことを歓迎するし、新しい公共のあり方に期待するが、NPOの専門性と行政の専門性とのミスマッチングが心配(NPOと行政との信頼関係が基本にある)	ワーカーズ・コレクティブは地域に必要な事業をおこなってきた。「新しい公共」の学習会を開催し、広く市民団体の持つ資源の活用を支援する方針を掲げて実現していけたら良いと思う。子育ての分野では、事業性が低いため実現しにくいのが現状で、市との連携により、子育てに必要な機能を充実させたい。具体的には「常設「親子ひろば」 駅前立地の一時預かり保育所 空き家を利用した「小規模保育園」 空き店舗を利用した「24時間体制の訪問保育サービス」 空き校舎や庁舎を利用した総合的な子育て支援(例:立川市) イギリスの「ホームスタート」実施 全園児対象の「食育体験教室」の実施など。 必要な支援は人件費や施設の提供、広報活動の協力。 施設中身を市民団体に任せられた方が、市民ニーズにあったサービスを提供できると感じる	小学校とのやり取りが多いが、担当課の児童青少年課と教育委員会との連携がとれていない。行政の横のつながりをとって欲しい
8) 他の企業や団体との協働・連携	[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] どの事業にも、ご協力、ご支援いただき感謝している。 NPO連絡会みたいな意見が言い合える場を作って欲しい(政策提言できる) [これまでの実績や現況] ・2006年企画事業「中高年の新たなスタート応援塾」開催 ・「西東京市の女性の聞き書き集」発行(2010年12月) ・「東日本大震災による被災者支援事業」(2011年8月と2012年1月) ・「協働を考えるシンポジウム」パネリストなど、 協働は順調に、有効に進めてきました。 [今後の可能性] ・協働のあり方の多様性に対応できるシステム作りが必要。そうすれば、行政もNPOもウインウインの関係になり、共に発展できるのではないかと。 今後10年の協働の基本方針を見直し、 何かしようとする、市民のみでは信用してくれない(特別な人が何かやっているというイメージ)。中に市が入ると対応が変わる、つなげる役割をして欲しい	[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 他企業や団体と連携し、1団体では出来ない範囲の事業を行いたい。課題としては連携することで発生する会議等の経費、事務局機能。 [これまでの実績や現況] 市との協働事業、公民館協働事業、他団体との協働事業等多数 [今後の可能性] 子育て団体との連携をして各々の活動を総合的にマネジメントして、市単位で同じ方向性で動けるような経費とノウハウがあると、主体的に市民団体が動き、使いやすい仕組みを作ることが出来ると思う。他団体との協働はわれわれにも大変有効と考えている。	地域の中で、かかっている団体や活動内容など現況を知れば、何らかのかかわりができる(例えばどんと焼き、いろいろ団体がかかわって横の連携がとれている) 自分たちが広げていこうという気持ちさえあれば、自然と結びついていくもの、やはり行動しないとわからないと感じる
9) 今後の新しい展開・取組み	常に地域のアンテナとなり、当NPO法人のミッションにそった解決方法を考えてきたし、これからも、その視点を大切に進めていきたい。	少子化や母親就労率の影響で、10年続けている親子ひろばは有料広場から人数が減少し、無料ひろばは継続的に人数が集まる。ニーズは高いですが運営が厳しい。事業的な観点で今後24時間体制の保育や、常設の場での一時預かり保育、夜間の預かり保育、緊急サポートなどを事業性がある課題への挑戦を考えている。若い世代の母親が主体的に活動している兆しが多く見られ、次世代に継続できる市内での事業を創りだしていきたい。	モデルケースとして、行政とともに不登校の子供の居場所づくりを行うことになっているが、会としても子供の体験の場を作っていきたい。
10) 西東京市への期待と注文	総合計画策定へ向けて 市民サービス、どんなまちにしたいのか 具体的示唆を明確に 市民が誇れるまちづくりを期待する 子育てに力を入れて欲しいし、若い人にお金を使って欲しい 「ゆめこらぼ」は、本来NPOをつなげる目的で作られた。しかし、運営が主体になっているような気がする。政策提言することはできない。委託の限界があり(ぶつかっていく元気がない)。「ゆめこらぼ」とは別に連絡会を設ける、行政も中に入る、今後の新たな形が求められる。	・NPOなどの市民の団体との協働を市全体で推進 ・子育てNO.1のまちづくりを目指す ・子育てのモデル的な事業をする民間団体を支援(資金面、研修面、人材面) ・食育事業の推進。地域の団体との連携により「食育のまち」を推進(例:小浜市) ・産後まもない母親を支援するボランティアの養成(イギリス・清瀬市) ・病児、病後児保育サービスを提供 ・複合的な常設親子ひろばを開設(カナダ:ドロップイン)	・交通整備 ・駅周辺の整備(駐輪場) ・道路の整備(歩道、自転車道)
総括) 重要視しているポイント	今後10年の協働の基本方針を見直し、打ち出して欲しい。NPO連絡会みたいな意見が言い合える場を作り、協働や連携の可能性や政策提言の機会をつくって欲しい。	特に出産後の親を支えることが重要。産後から就園前までの親子の見守りと支えを通して、顔の見える関係作りを目指して事業を進めていく。ここで、うまく子育てができればあとはうまくいく。	人と人のつながりを通して、育っていくまち。そういうまちになって欲しい

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(2-1.笑顔で暮らすまちづくり)

社会福祉(1)				
	社団法人東京都西東京市歯科医師会	西東京市社会福祉協議会	(社)西東京市医師会	西東京市薬剤師会
1) 主な事業や活動内容	活動エリア: 西東京市 主な事業: 学術研究事業、公衆衛生事業、学校歯科事業、広報事業、医療保険事業、厚生事業、医療管理事業 東日本大震災を契機に防災についての役割として災害に強い三医師会を目指す(止血/縫合、トリアージなどは歯科医師の範囲になる)	活動エリア: 西東京市 活動内容: 市における社会福祉事業、その他の社会福祉を目的とする事業の実践、を通して、地域福祉の推進を図ることを目的に活動をおこなっている ポランティアセンター(保険)の登録者3200名(実際は500名くらいの人)が稼働)	活動エリア: 西東京市及び周辺地域(2次医療圏) 活動内容: 主な事業は定款の通り 医学の振興、研鑽に関する事業 / 公衆衛生に関する事業 学校保健に関する事業 / 地域保健医療に関する事業 社会保障医療に関する事業 / 会報発行及び広報活動に関する事業 / 休日診療所の運営に関する事業 / 訪問介護ステーション及びケアプラン センターの運営に関する事業 A会員 125人(開業医)、B会員 104人(勤務医) 合計229人	活動エリア: 西東京市及び東京都内 活動内容: 薬剤師の倫理及び職能向上に関する事業、薬学教育、薬事の進歩発展に関する事業、薬事衛生ならびに公衆衛生改善発展に関する事業、関係行政機関及び関係団体に対する協力に関する事業、医薬品及び衛生材料の検査に関する事業、学校その他集団施設の環境衛生改善に関する事業、医療保険に関する事業、介護保険に関する事業、公害防止に関する事業、防災に関する事業 その他、市民まつり、健康のつどい、東日本大震災、被災地への医療ボランティア活動
2) 良い点・改善が必要な点	良い点: 行政と各団体の関係が良好 改善が必要な点: 公衆衛生事業を遂行するための広報(市民への周知)不足	良い点: ○ 市内、都心へと交通の便、アクセスがよい。緑が少ないが、閑静な郊外住宅地で、生活環境がよい。高齢者の福祉施設等が比較的整備されている。市民活動団体等が活発である。 改善が必要な点: 町内会・自治会等の再構築等、地域コミュニティの促進 地域住民が自主的・主体的に活動ができるコミュニティ施設等の整備 安全安心な道路整備 公園、緑地の整備	良い点: 健康都市宣言するなど健康施策への取り組み水準が高い。	良い点: ・医師会、歯科医師会等、関係団体との相互協力が良好 ・しゃきしゃき健康体操、プレミアム券の発行 改善が必要な点: ・環境の変化に対する認識や対応 ・少子高齢化、少子化対策 義務教育児の医療費の負担継続 ・高齢化対策 介護に対する費用を蓄え/ジェネリック医薬品の使用が不可欠/生活保護の方も。
3) 現状認識・対応	在宅歯科医療連携、摂食えんげ機能などホームページによる市民への広報活動	要介護者の増大が予測され、高齢介護施策の充実が必要。要介護状態にならないよう、介護予防施策の充実が必要。認知症の高齢者が増大してくることが予測され、認知症対策の充実が必要。 ひとり暮らし高齢者の増加により、孤独死、孤立死対策が必要。	在宅療養を支援する仕組み ・検診受診率(がん検診を含む)の向上 ・予防接種の拡大 ・認知症 ・都市うつ病対策に力を入れている(自殺者対策)、精神科と一般開業医と連携し、一般開業医がある程度の精神疾患の患者をみて、精神科医と連携しつなげる仕組みが必要となる。 ・在宅治療を支援する仕組みづくりについて、今後、在宅治療が増えるにしたがって、訪問治療体制の構築、地域包括センターの役割が重要になる。市内の病院は、地域連携の病院へ転換する必要がある。(市民用ベッドの確保、訪問診療では、24時間の体制ができない)	医療情報を電子化してデータベース化、「どこでもMY病院(自己医療・健康情報活用サービス)」構想の導入、利用者及び多職種との連携にも有効、民間企業が実施するより市町村が導入の方が地域医療の効率化につながる(全国どこでも過去の診療情報に基づいた診療を受けられ、さらには個人自らが医療・健康情報を医療機関から受け取り、自らデータを管理・活用ができる)
4) 活動運営の課題	法人制度改革に伴う新公益法人への移行(現在は社団法人)公益法人化にともなって事業を拡大していきたい	会員費(10%)、行政からの財源で維持されており、事業の自主・主体的な運営が難しい 地域リーダー等の高齢化、自治会、町内会の衰退、高層の集合住宅の増加等により、地域で活動する人材確保が難しくなっている。 社会福祉協議会は、地域住民が主体の「ふれあいのまちづくり」事業等を通して、地域住民の連携、協働のノウハウは蓄積してきている。また、社会福祉の専門機関として、福祉専門職を擁しており、継続的な福祉専門機関としての役割を果たしていくことができると自負している。	○新規開業医の減少 西東京市は特にその傾向が顕著、開業への経営的な問題があり、ほとんどがビル開業、2世開業医も少なくなっている。	平成24年4月より一般社団法人西東京市薬剤師会を設立 法人化に伴う会運営のための収入増加を要検討 ・5大疾病の治療医薬品の適正使用、予防医学を取り入れた薬物療法。 ・セルフメディケーション啓発活動。 ・薬学部実習生受入薬局の整備
5) 市のまちづくりに関する認識・課題	・市庁舎が二つある ・市民会館の不足(駅に近いところはないか) 市民向けのイベントに対する場所が不足という意味 ・駐車場の不足	この10年間、コミュニティ施策の取り組み不足により、地域福祉の推進が遅れているのが現状。 地域住民の協力がなくては困難な災害時の要援護者支援など、災害をキーワードに、地域コミュニティの再構築のための施策の充実、強化が必要である。	老朽化してきている公共施設への対策が必要	道路整備の遅れ、西武線の高架化、バス路線の見直し。 保谷庁舎へのアクセスの不便。
6) 地域活性化に関する市政運営	[市として力点を置くべき点は] ・健康都市宣言 ・本会の基本的な事業活動 [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 健康に過ごせるまち西東京 [活用すべき資源やPRできる点] 本会の活動で7522、8020表彰、よい歯のコンクールなど	[市として力点を置くべき点は] 各拠点での地域コミュニティ施設の整備 地域コミュニティの充実のための組織強化と活性化のための財政支援。 [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 市民が生きがいをもって、西東京市で暮らしてよかったと思われるようなイメージをもてる市になっていければと思う。 市民が活動できる地域コミュニティ施設の整備 [活用すべき資源やPRできる点] 東大農場の地域開放、協働 先端技術を持っている企業と市の協働 アニメーション企業とのコラボレーション 市内福祉関係人材等の活用と情報発信	[市として力点を置くべき点は] 教育分野では、学校保健会の実施を望む [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] [活用すべき資源やPRできる点]	[市として力点を置くべき点は] 高齢者がいきいきと働く、ボランティア等参加できるまちづくり。 [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 子育てしやすい環境、保育所の整備。 [活用すべき資源やPRできる点] パンフレット、リーフレット、ポスター等は各薬局の待合室、店内に常備、掲示可能。

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(2-1. 笑顔で暮らすまちづくり)

社会福祉(1)				
	社団法人東京都西東京市歯科医師会	西東京市社会福祉協議会	(社)西東京市医師会	西東京市薬剤師会
7)市との関係 (支援や連携等)	市より下記事業を受託 休日応急診療事業、歯科検診事業、就学時検診事業、歯科医療関連推進事業、在宅歯科医療連携事業、摂食・嚥下機能指導者養成事業 近年は、生活の中の歯科、食べるという中で歯科という観点が重要になってきた	社会福祉協議会は、福祉の専門職を擁している団体であり、身近な地域での様々な福祉に関する総合相談機能の役割を果たすことが可能であり、行政との連携、協働が可能と思われる。 ふれあいのまちづくりで学区ごとにシステムを作り、連携を図ってきたことはきたことは誇れるのでは。	市民の健康増進や公衆衛生事業について、行政と医師会の連携は不可欠 近年では医師会の公益事業として胃がんハイリスク検診を特定健診と同時に実施し大きな成果を上げた。	介護保険認定審査会委員/国民健康保険運営協議会委員/国民保護協議会委員/国民体育大会西東京市実行委員 災害時医の救急活動及び応急医薬品の供給 包括支援ケア会議
8)他の企業や団体との協働・連携	歯科にかかわる関係団体との講演会を開催(共催)している。医師・薬剤師との連携も進めており、今後の可能性として、医歯薬連携の会の発展がある。	地域福祉の推進が社会福祉協議会の役割であり、地域課題の解決に向けて、地域力を動員して、連携を図りながら地域福祉を推進する。これまで、「ふれあいのまちづくり」事業で、市内20地区で、地域住民との住民懇談会を支援してきており、今後も、社会福祉の専門性を生かし、地域人材の発掘、人材育成、人材活用の役割と連携を行い、地域福祉の推進をしていきたい。	[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] これまでどおり連携していく 西東京市も国都の保健衛生の指針に基づいて事業を実施しているが、ある程度の自主性をもってほしいのではないかと [これまでの実績や現況] ・三師会(医師会、歯科医師会、薬剤師会)で、医療技術の向上や情報交換を実施 ・医歯薬連携の会を2回開催し、講演会(市民へ公開)を実施 [今後の可能性] ・地域医療、特に在宅医療の分野では、医療職の他、福祉職との連携がますます必要 在宅はやれないという医師も増えるかもしれない(24時間対応が困難などの理由から) ・地域密着型の病院をふやすことができれば、在宅医療の体制強化につながる ・救護所などの対応もしているが、災害時医療への対応も各職種の連携が欠かせない	[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 主な事業・活動内容に関連する事であれば前向きに検討、協力 [これまでの実績や現況] ・休日診療所の薬剤師の派遣、輪番制診療所開診時の近隣薬局の対応。 ・新型インフルエンザ流行にそなえた医薬品の供給 ・歯科医師会への救急医薬品の供給。 ・使用済み注射針の無料回収、処分の実施 ・学校薬剤師によるお薬教育、薬物乱用防止活動、及び各学校での講義。 ・在宅医療対応薬局の整備、マップの作成。 [今後の可能性] 医師会、歯科医師会、訪問看護、介護施設、ケアマネ、その他、連携の強化、在宅医療の推進、高齢化社会への対応。
9)今後の新しい展開・取組み	現在行っている事業の拡充 (高齢者のための食事の改善、防災、児童虐待などのテーマで) Q. 合併して10年、今後の10年は違った展開になるのでは? フットワークのある若い人が前面に出て活動してもらいたい。また、より深刻になる高齢化を受け止めた展開を考えていくのではないかと、摂食えんげ機能の把握、口腔ケアなどの話は重要、これによって要介護度もまちがいなく左右されると思う。	○身近な地域拠点において、福祉総合相談機能が果たせるような事業展開 高齢者や障害者等で判断能力の不十分な人たちへの権利擁護を担える専門性の充実とそれを支援する人材の育成、支援できる事業展開	2)の課題への取り組み 病気になる前の予防(一次予防)の視点が医療にとっては一番と考えている。病気になる前に自らを守る、健康寿命を延ばす。生活習慣病、最近では癌も予防できる。介護になる前の健康づくりに重点的に取り組む必要があり、これを市が推進する必要がある。	・医療費抑制の為ジェネリック医薬品普及を会員薬局へ強化展開 ・市民に向けたお薬相談、健康相談、講演活動の実施 ・平成25年より中学生以上のお薬教育の(学習指導要綱)対応及び指導学校薬剤師の養成 ・2013年団体におけるアンチドーピング活動、及びスポーツファーマシスト養成 ・自殺予防対策、薬局窓口における早期発見、治療に結びつけ
10)西東京市への期待と注文	・口腔保険法に則った本会会員(歯科医師)の活動協力 ・いろいろな事業があってわかりづらい。この辺が整理されると市民から理解されるのでは	地域コミュニティの再生、強化を図り、市民が自主、主体的に地域課題解決に向けて取り組めるよう、活動拠点としての地域コミュニティセンター等の計画的な整備 地域コミュニティセンター等において、地域福祉相談センター機能を併設することで、地域課題、地域福祉課題解決に向けて、市民と協働して取り組む 地域コミュニティの再生のための、市民が地域で主体的、積極的な活動ができるような財政支援策 *今、人とかがわりたくない引きこもり(子供、高齢者、母親、若者)が問題になっている。それを解決することが必要では、そのポイントになるのが人であり、ボランティアセンターが核になるのでは、そのための人材育成、仕組みづくりが必要(つなげる役割が重要か)	健康都市宣言にあたっての答申文付帯意見の実現を望む。	市内小中学校の養護教諭、学校関係者、学校薬剤師との情報交換の場の設置 休日の診療所開診時に、自主的に開局する近隣薬局に対する補助等の支給 現在は大部分の診療所は院外処方となっており、現在の診療所のみでなく(薬局も含めた)援助体制の再検討。又、開局薬局の情報を市報への掲載 使用済みの注射針は各薬局で回収し処分を薬剤師会(費用負担)にて行っている。本来は一般市民からの廃棄物は市町村対応、回収は対応するが、費用は市負担をお願いしたい 法人化に伴い、事務所の開設を検討。医師会、歯科医師会同様に市の施設の提供を切望
総括) 重要視しているポイント	これまで描かれた歯科医の事業とは異なる、食事、防災など、より市民の健康や生活に寄り添った新たな事業や役割が求められ、これに向かって役割をシフトしていく必要がある。	社会福祉の専門性を生かし、福祉総合相談機能が果たせるような事業展開を図りたい。 そのための地域コミュニティの再生、強化への支援、活動拠点としての地域コミュニティセンター等整備などを推進してもらいたい。	高齢化社会の進展にともなって、今後、地域密着型の病院へ転換する必要がある。病気になる前の予防(一次予防)の視点に加え、在宅医療が増え、訪問治療体制の構築、地域包括センターの役割が重要になる。医療と福祉職との連携がますます必要になってくる。	医師会、歯科医師会等の連携と、市民サービスの向上

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(2-1.笑顔で暮らすまちづくり)

社会福祉(2)				
	NPO法人サポートハウス年輪	特定非営利活動法人 移動サポートひらけごま	(株)ケアワーク北多摩	株式会社ニチイケアパレス
1) 主な事業や活動内容	活動エリア: 西東京市が中心(サービス利用者数 500名) 活動内容: 居宅介護支援、訪問介護、食事サービス、認知症対応型通所介護、認知症対応型共同生活介護 など その他、バザーの開催や認知症サポーター養成講座などを開催している。	活動エリア: 福祉有償輸送 西東京市、練馬区、武蔵野市、東村山市、小平市、清瀬市 活動内容: 移動困難な方への移送サービス ・お出かけ企画等 その他、移動サービス相談事業、宮城県、東松島仮設住宅にてコミュニティづくり支援	活動エリア: 西東京市、武蔵野市、東久留米市、練馬区 活動内容: 居宅介護支援事業、訪問介護事業、障害者自立支援法、有料職業紹介事業、ひとり親ホームヘルプ事業等 その他、職員に対する安全対策、健康管理等の対応、地域清掃等を行っている。	活動エリア: 西東京市柳沢5-2-3 活動内容: 特定施設入居者生活介護事務所・介護付有料老人ホーム(50ホーム) 定員52名(52室)全室個室
2) 良い点・改善が必要な点	良い点: 市全体を自転車等で回れる/都心までの便も良い ・東大農場があり、緑豊かな風景が良い。 ・市民活動団体が多く、公民館活動、ゆめこらぼなどの活動も活発 ・福祉介護関係のネットワーク情報が共有できている。 改善が必要な点: ・道路(自転車、車いす)の福祉的整備が遅れている。 ・福祉と医療との連携が進むと良い。病院と開業医との連携も。 ・子供の遊び場が不足している。 ・独居高齢者が増加し、振り込め詐欺も多く、町全体のコミュニティ力が不足	良い点: 目的を問わず無料で利用できる「けやき号」。 改善が必要な点: 高齢になると「膝が痛いから」など出かける回数が減少し、閉じこもりになる。意外にコミュニティの場が少ないように思う。(買い物難民が埋もれていて、把握しきれていないのでは)	良い点: 地域包括支援センターが、各地域にきめ細かく配置され、市内事業と連携が取れ、指導体制も確立されている。 ・介護保険制度が着実に定着し、円滑な事業運営が計画できている。また、自治会組織など地域コミュニティが醸成されており、近隣同士の協力が可能である。(見守りなど) ・他市に比較して人口が増えており、また、市内に都営住宅等集合住宅が多く、サービスの面から効率的に行うことができる。 改善が必要な点: 介護保険関係に関する国及び東京と他市等の情報を迅速に提供してほしい(市の動きが見えてこない)。そのためにも、例えば介護保険連絡協議会などの回数を増やして、先進事例等を伝えてほしい。	良い点: 都心より近く交通の便が良い。西武柳沢駅から徒歩で7~8分、家族が面会に来やすい/みどりも多く環境が良い。 改善が必要な点: ・入居者が病院受診をする際、長時間待つことが多いので病院の整備が必要(規模の大きな総合病院) ・石神井川が普段まったく水がなく、きれいな水が流れている川にしてほしい
3) 現状認識・対応	3年に一度見直す介護保険制度は、常に柔軟な頭を持っていないとついていけない。情報を正しく迅速に入手し、全員で共有することに努力している。市の実態や情報を正確に把握することも大切である。	ボランティア性の高いものが認められれば、現役の人につながっていくのでは	・質の高いサービス、認知症、倫理、接遇、リスクマネジメント等の研修を充実、発展させて、会社の理念である「ご利用者の命を守る」を推進していきたい。 ・IT化は、福祉業界も同様で給付の請求及び計画、記録、事務などすべての分野で不可欠であり、PCも職員一人一台設置して業務遂行している。	5階建てマンションが建設中、立地して大きく環境が変化しつつあり、今後のトラブルなどがないように対応していきたい。
4) 活動運営の課題	市全体として福祉力はアップしたと思うが、それに伴い、介護人材の確保が課題になっている。少子高齢化の波を早々に受けていると感じている。	運転協力者が少ない。 (ちょっとしたことができる人を見える化、組織化して欲しい)	・人材の育成及び確保 ・ホームヘルパーの高齢化 ・サービス提供責任者の質的向上と社会的認知度(低いので向上させることが必要) ・24年度から開始される地域密着型サービスである24時間対応の定期巡回、随時対応サービスへの検討と取り組み	看護師、介護職員の人材確保が難しい。 他企業から比較すると、まだまだ給与の改善が必要ではないか。(若い人が入るような職場に)
5) 市のまちづくりに関する認識・課題	西東京市といえば〇〇というものがない。特徴を持つことアピールすることが大切なのではないか。	運転した方が地域で活躍できる場が増えてほしいと思う。 市は、提案などに対して敷居が高く、協力体制が感じられない。 (特に事業者に対してか)	各駅前開発、公園などハード面の整備はされて、生活する上で利便性は向上している。 市のあるべき姿については、 健康都市宣言による一人ひとりが輝きお互いに支え合うまちの実現などソフト事業の推進。 東日本大震災から学ぶ災害に強い都市づくり ・防災リーダーの育成、食糧、水などの備蓄、災害時要援護者登録制度の充実 ・帰宅困難者への対応、再生可能エネルギー導入の検討 ・他市に負けない庁舎等公共施設の節減対策 など	田無駅前、ひばりヶ丘駅近郊も整備されつつあるが、ひばりヶ丘駅に向かうバス路線が非常に狭く早く整備が必要と思われる。 緑豊かな子育てに良い環境づくりに努めてもらいたい。
6) 地域活性化に関する市政運営	[市として力点を置くべき点は] 認知症サポーター養成に力を入れている本市なので、これをもっと進めて、市全体(小・中・高校を含めて)の課題として取り組む。 [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] “西東京市の特徴は何か”ともっと議論してあぶりだすことが必要。(職員、市民など) [活用すべき資源やPRできる点] ・認知症サポーター5000人(都内でトップクラス) ・東大農場、多摩六都科学館 ・遺跡、田無宿など ・ベビーブーム、子供がいっぱい (もっとアピールできるものを見える化する)	[市として力点を置くべき点は] ・年齢を超えたコミュニティづくり ・ミニディ等、公共施設外での拠点づくり	[市として力点を置くべき点は] ・大規模店と競合する商店街、特徴ある商店の育成~アイデア豊富な若手事業者の発掘 ・自転車道(ゾーン)の整備~子供からお年寄りまで 安全、安心面から [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] ・災害に強い、安心して生活できる都市 ・健康都市宣言など笑顔で支え合う福祉のまち ・2庁舎制ではなく総合庁舎の建設 [活用すべき資源やPRできる点] 団塊世代の活用 ~ 地域カフェなど、自由に話し合う集える空間を通してコーディネーターの役割を果たしてもらおう。また、行政の中でも先輩から引き継がれた団塊の世代の蓄積された知識、技能等をこれからの職員、組織に伝える	[市として力点を置くべき点は] 都心から近いため住宅の整備/子育てなどしやすい環境づくり 高齢化社会に対して保育所や学校一体となるような施設づくり [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 緑豊かな子育てにやさしいまちづくり。 [活用すべき資源やPRできる点] 都心から近く生活しやすい点/緑も豊かで環境に良い点

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(2・1.笑顔で暮らすまちづくり)

社会福祉(2)				
	NPO法人サポートハウス年輪	特定非営利活動法人 移動サポートひらけごま	(株)ケアワーク北多摩	株式会社ニチイケアパレス
7)市との関係 (支援や連携等)	・NPO事業提案事業 ・市高齢者支援課と協力して認知症サポーター養成講座開催。	・福祉関連のネットワーク(介護保険外の「移動の問題」はニーズが見えにくい) ・買い物に不自由な地域にお住まいの方は次第に閉じこもり引きこもりがちになります。こうした相談窓口担当に当団体がなればと思う	西東京市要保護児童対策地域協議委員 西東京市主任ケアマネージャー研究協議会 訪問介護2級の講習会参加実習生受け入れなど福祉を通して協力・連携継続可能である。	・地域の高齢者との交流にNPOが関わることにより色々な交流ができると思う ・老人ホームという性格もあり、あまり他のNPOとの連携はとれていないのが現状で課題
8)他の企業や団体との協働・連携	[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 法人の理念を実現するために連携が必要であればきており、今後も変わらない [これまでの実績や現況] NPO法人連絡会で様々な研修会、イベントを企画運営。 社会福祉協議会やボランティアセンター等との連携、運営委員や評議委員なども参画 [今後の可能性] 今後は様々なコラボレーションが地域課題の解決手段だと感じている(それぞれの持ち味を生かして連携することが望ましい)	[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 年一回程度実施している「お出かけ企画」に、地域包括や介護事業所と連携できたらいい [これまでの実績や現況] NPO等企画提案事業に不採用となり、どのように市とつながりを持てばいいのかわからない	[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 会社の経営理念である「ご利用者の命を守る」に努めていきたい。また、営利企業であり、独立した事業体として事業活動を展開したいと考えている。このため、お互いに共通した課題での連携は可能と思うが、真に心割って協働できるかは難しいと考える。 スタートは、行政などの公的組織が、共通課題などに対して事例検討等を提起して、指導していくのがスムーズにいくと思う。 [これまでの実績や現況] 昭和38年8月に有料職業紹介事業所から今に至っている。西東京市の地域福祉に少しでも貢献してきていると思っている。 [今後の可能性] 今後は、1社のみですべてを行っていくことは難しい。ヘルパーの人材バンクの登録制などを検討していただくと人材の活用など有効でないかと思う。 地域包括支援センターが困難事例会などを通して各事業者間をまとめて連携、指導していく。今後の課題である施設から在宅へ、医療との連携含めて共通認識を持って進めていけると思う。	[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 私たちは誠意をもって社会参加を行い、入居者の幸せを目指し、日常生活の支援を業務として行う。 [これまでの実績や現況] 西東京市を行う特定施設入居者生活介護合同分析の参加 介護連絡協議会参加 色々な研修会参加
9)今後の新しい展開・取組み	“いつまでも地域で暮らし続けるため”の仕組みづくりに、18年努力してきたが、今後もこの方向で進めていきたい。	相談(移動)員の育成(杉並で移動相談生活センターを開設している)	○新規開拓PTチームを編成して、新規利用者を開拓 ○施設から在宅へと介護保険制度が変わる中、24時間定期巡回・随時対応介護看護の地域包括ケアシステムの構築へ取り組む ○ALSなど難病の方が在宅で暮らしていけるよう質の高いホームヘルパーを養成 ○重度視覚障がいの方が安心して生活・文化が楽しめるようガイドヘルパーを養成	介護現場の様々な事象を「科学的・客観的」に検証することで専門知識を身に付け、個々のニーズに合わせた介護を実現することを目的とした「事例研究発表会」の開催
10)西東京市への期待と注文	福祉的な視点を持って、すべての施策を計画するようにしてほしい。 西東京市が家族機能をもつ町となり、最後まで自分らしく過ごせ、“安心して死んでいける町”を目指す...。 地域の資源と言ったときに、特養が災害時の避難所として活用できるのではないか(被害が少ない/食事やトイレなどの施設)。市が音頭をとって災害協定を結ぶなど検討を。 予防は重要だが、健康な人が健診を受けるには、コミュニティカフェなどで簡単に楽しく受けられる場を作ったらどうか。商店街の空き店舗も利用できるのでは。 介護人材の確保の問題は、今の介護事業の待遇の低さにある。同じような仕事しても医療と介護で待遇の開きが大きすぎる。根本的に改善が必要。 人材確保は事業者任せにしている感じもする。人材不足は介護事業そのものの問題で、行政も当事者意識を持って欲しい。	福祉交通の充実	○合併した当時の新市の理想と精神を忘れずに市民サービスの向上に邁進してほしい。 ○ごみ・資源の原料でトップクラスなど他市をリードしてほしい。 ○増え続ける独居高齢者・世帯への、きめ細やかなサービスを打ち立ててほしい。 ○総合庁舎建設をあきらめないでほしい。 ○四季それぞれの花(春ツツジ、夏ひまわり、秋コスモス、冬すいせん)にちなんで季節に合ったスポーツ大会の開催 野球、水泳、市民運動会、駅伝大会 ○災害に強い市として、ソフト面、特に市民(若い人)を育成して避難誘導 ○若い世代が集い、結婚しても住み続けられる街にしてほしい。(保育園、幼稚園、雇用、就活への援助を行って、定着した居場所づくりが必要) ○超高齢化社会への取り組みとして、地域包括ケアシステム構築に関して市の助言、指導をお願いしたい。	高齢者の方も安心して生活できるよう身近な医療機関の誘致(現在ある総合病院は設備、建物も古く長時間待たされる。緊急の場合、なかなか受け入れをしてもらえず遠方での受診や入院が多い)
総括)重要視しているポイント	“いつまでも地域で暮らし続けるため”、そして最後まで自分らしく過ごせ“安心して死んでいける町”を実現する。この理念を貫きたい。	“いつまでも地域で暮らし続けるため”、困っている人の意見を吸い上げ相談にのる機会の確保と、声をあげたことを、ソフト面から施策に盛り込んでいく姿勢が必要	今後の福祉の困難さをのりこえ、協働や連携を深めるには、行政が共通の課題を示して、そこから解決策を見いだすことが必要では。	お客さんが、「最後まで安心して暮らしていける施設」を目指す。近年は「みとり」についても力を入れている。

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(3-1.環境にやさしいまちづくり)

環境 / 景観 / ゴミ(1)			
	西原自然公園を育成する会	東大農場、演習林の存続を願う会	NPO法人循環型社会研究会
1) 主な事業や活動内容	活動エリア:西東京市(主として西原自然公園) 主な事業:老化した西原自然公園の雑木林の若返り作業を行っている。 11年経過、実働15人位が月2回作業を行い、2ヘクタールの3分の1が更新され若々しい林となった。 その他、環境展、公民館祭りなど参加している。	活動エリア:西東京市 活動内容:農場・演習林 動物・植物観察会(月4回) 演習林と協働の「西東京子ども樹木博+認定活動+春秋2回」 「農場・演習林の生きものたち」発刊 子ども自然観察指導、食・農教育・研究の東大農場都市のパイプ役 ・観察会は都でも、1、2位とランクづけられ、年間延べ1000人以上の参加者数。農場移転中止要望署名活動が中核となった。 ・2011年度「東大農場はどう変わるか～その将来像とまちづくり」を市・東大・当会協働事業としてフォーラム2回・WS7回・報告書作成の事業を実施 ・その他、農場・演習林を核とした市民ネットワーク形成	活動エリア:西東京市中心(東京大学教授の指導をいただきながら) 活動内容:・自然大地と接し活用が基本 ・生涯健康食品の食用効果を ・子供と大人の心の交流で心の要請 その他、大地の活用、自然の恵み効用 子供と大人、老人との心の交流で和心を生むこと。
2) 良い点・改善が必要な点	良い点:ボランティア活動であるが、余り市に依存や要求をせず、市・みどり公園課にも適切に対応してもらって、好ましい協働の形ができています。	良い点:・東大農場・演習林が田無駅から徒歩8分に存在 ・2003年移転問題が起こった時、3ヶ月で46,000の存続署名が集まり、東大農場への市民の愛着が示されたこと ・東大がキャンパスの南側部分を市民大学、市協働の社会実験の場と位置づけている ・市企画の10周年記念事業で、市民と東大との連絡協議会(現段階では準備会)が誕生 ・食・農の世界への発信基地として、緑のみならず、まちづくりの核として地域資源がある 改善が必要な点: 市役所内の縦割り:企画・都市計画、みどり、教育、産業振興、東大農場への横断的連絡が必要 地域住民が自主的・主体的に活動ができるコミュニティ施設等の整備が必要 安全安心な道路整備が必要 公園、緑地の整備が必要	
3) 現状認識・対応	他の分野でも同じと思うが、「自然環境保持」、「緑の安全」には、市民の協力が特に必要と思っている。 今後は、財政も考えながら行動する市民であることが求められる。	合併以来人口増が続いている当市では、高齢化の進行も平均値からいえば人口減の市よりもスピードが遅いと思われる。人口増の年齢層等をよく分析して、今後の市の方針を決めるべき。	子供と大人、老人との共同での心の交流場として農場耕作生産、食用等で心の交流を図りたい。(互いに挨拶ができるくらい)
4) 活動運営の課題		市民活動は1993年のTAMAらいふ事業で急速に拡大したが、すでに20年経過。市民団体も高齢化し、団塊の世代にも受け継がれていない。一方、シルバー世代の中でも、これまでのキャリアで積み重ねられた力を活かされていない。まちづくりは人づくり、人の活かし方だと思う。人材の活かせる、人材を見つけ出せる具体的方策を考えるべき。 団塊の世代がまちづくりに顔を出してこないのは問題	基本になる場所、モデル地を作りたい。東京大学の農場の一部を共同の研究地として活用、利用できることを望んでいる。 研究は心の交流、環境大地の良否、耕作物品質、食用効果、健康の増進等の効果を見る。
5) 市のまちづくりに関する認識・課題	・「緑豊か」とか「安心して暮らせる」とかスローガンはあるが、実情はまだまだ未完成の感がある。 ・住んで良かったまちより、住みたいまちをつくりたいという気持ちが大切	市役所は市内で一番大きい事業体でないか? 市役所の経営のあり方、職員の力量、市民とのかかわり方など、是非行政のプロとして切磋琢磨して力をつけてほしい、市役所全体がそういう環境であってほしい。 当市のゴミ行政が多摩地区でも一二を争うほど成長したのは、担当人材の力があつたため。ゴミ行政は、行政と市民の協働の成果の見える化の代表。緑を増やし、ゴミを減らす実績をつくってほしい。	1. 老人を老人ホームにとどめることなく平素は自然林地や農場散策、健康食品試食などに出場すること。 2. 子供たちの自然を学ぶ場、遊ぶ場として、耕作食物、健康状況などを見る。
6) 地域活性化に関する市政運営	[市として力点を置くべき点は] ・もっと市民の活動を知る。 [活用すべき資源やPRできる点] ・西東京市の市民は、市民として意識が高いと感じているので人が資源。	[市として力点を置くべき点は] ○みどりと歴史の強調 かつて田無市にあった緑と歴史を活かし、東大農場を核に、都市と農の共存するまち。 みどりと活気にあふれるまちを強調 [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 青梅街道沿いの江戸時代からの歴史あるまち(一つの歴史的エリアとして考える) [活用すべき資源やPRできる点] 東大農場も含めてエコミュージアム、屋根のない博物館ともいえる歴史のまち西東京 [その他] 都、産業労働局の「都市と農業・農地の共存」と、キーワードの「都市と農の共生事業」(産振課)を発展させるべき(東大農場の大きな計画を、歴史的建物を残してという内容を入れて欲しい～「都市と農」がキーワード)	[市として力点を置くべき点は] 市内農場の健康化を図り、健康食品の評価、学校、老人ホームの給食効果を東京大学と協力、指導で進める。 [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 市内環境優良化で、市民の健康状況の展開、他市との差が生まれることに、健康食品との併用で効果を見る。(給食など) [活用すべき資源やPRできる点] 市内の有機物を堆肥化して市内自然、農地の健全化を図る。 [その他] 事業の目的、目標は利得ではなく社会、市民に役立つこと、拠点作り
7) 市との関係(支援や連携等)	市全体(ほかの部分)で見た場合「新しい公共」の考えは、市民の方の意識が高く、行政の方にまだその切り替えができていないように感じる。	1992年、旧田無市議会の「農場移転と広域スポーツ公園化」の議決から20年間、「自然保護・市民自治・大学と周辺住民のかかわり方」をテーマに農場・演習林と市民のパイプ役として活動を続けてきた。市の十周年記念協働事業を機に、農場を「みどりの核」から世界に発展する「食・農の核」としてまちづくりに活かすことを、新しい共通認識としていきたい。	事業を進めるうえで市の協力、指導が一番大事。地元東京大学と協力するにも市の支援が必要

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(3-1.環境にやさしいまちづくり)

環境 / 景観 / ゴミ(1)			
	西原自然公園を育成する会	東大農場、演習林の存続を願う会	NPO法人循環型社会研究会
8)他の企業や団体との協働・連携	<p>[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 好きでやっていることであるが責任は持つ</p> <p>[これまでの実績や現況] 行政と対等なスムーズな関係</p> <p>[今後の可能性] 人材が続く限りエンドレス</p>	<p>[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] ○都市計画道路3・4・9問題(会として「これ以上環境を悪くさせない道路」申し入れ) ○東大のキャンパス計画 ○周辺地区計画 3つの課題を市・都の行政責任として、市民に正しい情報を発信してほしい</p> <p>[これまでの実績や現況] 直近の大きな成果として「西東京市誕生10周年記念市民活動団体提案協働事業～東大農場はどう変わるか～その将来像とまちづくり」を市・東大・市民の協働事業として、連絡協議会の立ち上げりにこぎつけ、報告書(113P)を発行。 2回のフォーラム、7回のW.S. 市民500名、東大の先生・学生延60名の参加</p> <p>[今後の可能性] 市の対応を期待している。昭和初期、当時の住民が「まちおこしの一環」として誘致した偉業を受け継ぎ、みどり(農・食)と歴史のまちとして発展する可能性を実現させる</p>	<p>[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 地域社会が評価する実績作り / 住民が賛同できる政策</p> <p>[今後の可能性] 市の協力指導、東京大学の協力指導をもらえる拠点地作りをする。</p>
9)今後の新しい展開・取組み		<p>(市?)・東大・市民(仮)連絡協議会(機構・事務局(存続を願う会)、農業者、教育関係者等各分野から多彩な市民が、新しい時代に向け、農場を社会実験の場として動き出している。H25年正式発足に向け何をやるか、何が出来るかと考える、大きな団体に育てあげていきたい。 協働の実験場として、農場(機構)をまちづくりに組み込みたい。</p>	<p>拠点地で科学的評価を受け、学校給食、老人ホーム給食での健康効果を計りすめたい。</p>
10)西東京市への期待と注文	<p>私の個人的な例になりますが、私はみどり公園課、ごみ減量推進課、環境保全課、協働コミュニティ課、公民館、図書館と付き合っています。</p> <p>協働コミュニティ課の消費生活展でやっていた、瀬戸物のリサイクル回収を公民館祭りで行い、ごみ減量推進課のリサイクル市に広げ、その話を小学校でするまでにつながりました。</p> <p>西原自然公園で育てた苗が余ったので、どうしようかと考え、ごみ減量推進課に日の出町の埋め立て地に植樹したいと話を携えていき実現しました。このように話を横につなぐのは、行政は得意ではありません。でも最近行政も変わってきたように感じます。市民の力が加われば多角的な市政ができるようになって感じています。</p> <p>行政が市民を理解して、どれだけ受け入れていけるかが大切</p>	<p>市長はまちづくりの指揮者、主役のオーケストラ団員(市民)を西東京市という舞台の上でどう演奏させるか。市としてはっきりしたまちづくりビジョンを示す責任がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所の二庁体制をこの次の10年も続けるのか ・新しいキャンパス計画により、東大との関係をどうするのか ・新しい公共、協働に向けて、市が一体となって行動できる共通認識を持っているのか ・都市計画、地区計画をどう進めていくのか ・都市と農の共生への手だてはあるのか ・公民館・地区館・エコプラザ・ゆめコラボ・ボランティアセンター...、市民活動の場の横の連携はどうなるのか(それぞれの役割が見えない、横の関係を総合的に見る) ・大所高所からのビジョンと、草の根からの様々な展望をどうつなげていくのか ・歴史・文化政策はどうすすんでいるのか ・景観はその場所の思想であると言われるくらい大切なものであるという意識が必要 <p>様々な制度・施策をうまく組み合わせ21世紀の先頭を切って合併した市を、住み続けられるまちにする第二次総合計画にしたい。</p>	<p>市内農場での健康食品栽培 学校給食、老人ホーム給食で健康増進を図る。</p>
総括)重要視しているポイント	<p>これからの市は、協働でやっていく必要がある。市のまちづくりの方向の決定には、市も市民も意見を言い合って、納得した上で共有化していくことが大切。 私たちは、協働の目標として、一つは環境を良くすること、もう一つは余分な財政を使わないことと考える。</p>	<p>新しい時代に向け、東大農場は緑のみならず、食と農、敷地内の歴史的建物を活かした地域の歴史を活かした、都市と農の共存するまちづくりの「協働の実験の場」として育て上げていく。</p>	<p>市民と市が協働により育てる、子供と大人、老人との共同での心の交流場として農場耕作生産、食用等で心の交流を図る拠点づくり。</p>

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(3-2.環境にやさしいまちづくり)

		環境 / 景観 / ゴミ(2)	
		西東京市環境サポーター はちどりの会	西東京 菜の花エコプロジェクト
1) 主な事業や活動内容	活動エリア: 西東京市全域 活動内容: (1) 環境学習・講座・交流会などの交流 (2) 環境保全などに関する行政・団体との連携・協議 (3) 環境問題に関する提言 (4) その他の環境に関する活動 年1回の総会 / 月1回 運営委員会の開催 / 年2~4回程度 講演会・見学会の開催 その他、アースティへの参加	活動エリア: 西東京市全域 活動内容: 作物による資源循環型まちづくりを目指し、菜の花やひまわりなどの油糧作物の栽培・収穫・消費・エネルギー化も含めた資源循環の実践および啓発活動を実施。 ・市と東大農場でのひまわりプロジェクトと連携 一般市民と市内小学校2校で ・公民館主催事業「農業を知る講座」環境・食育学習に協力 ・農家の協力を得て、菜の花、ひまわり、ゴマ、エゴマの油糧作物を栽培、収穫、景観の提供と啓発を実施 ・作物残渣(ざんさ)と落葉で堆肥化の実験を実施。 その他 ・夏休み企画「西東京産油と廃食油でのろうそく作り」(毎年エコプラザ西東京で) ・「菜の花プロジェクトネットワーク」や農業機械化検討会への参加 ・市内事業者や市民向けに廃食油アンケートを実施	
2) 良い点・改善が必要な点	良い点: 環境学習団体にとって、身近に学習教材が多くあること。 エコプラザ西東京、柳泉園、東大農場、市立公園、屋敷林、学校の緑のカーテン、貧弱な街路樹、工事中の石神井川、農地など 環境学習を市民に提供している 改善が必要な点: 裸地が少ない。水辺が少ないこと。 学習意欲のある人が少なく、環境に関心のある人が限られている どのような市を形成しようとするのか、明確な目標がない。 西東京市と言えば「……」だというものがない。	良い点: 何よりも、交通の利便性が良い。住宅地としての緑環境はこれを限度に保全の策が必要。東大農場が残り、まちづくりを考える上で大きな財産となった。市の補助金の協働事業提案も市民活動の活発化を誘発、ゆめこらぼの設立により、市民活動団体も横のつながりが出来て活発。従来の公民館活動も活発 改善が必要な点: 本市の緑環境は大きく農地に頼っており、今後の保全に重点を置くことが大切。体験型農園ばかりではなく、市民農園の機能アップによる増設が望まれる。小規模農家への支援の充実や、地域住民との交流・理解を深めるための農家育成も必要。 市は、市民活動の実態を把握し、今後策定される計画への参加を求める。	
3) 現状認識・対応	環境問題のグローバルな課題については、行政単位の分割性が邪魔となり、周辺市町との連携が円滑にいかない。市内においても、環境部署との連携が必ずしも十分に行えない。 文科省は全国一律を第一優先にするため、都市特有の環境学習について後回しになっている。都市部の環境学習は、地元教育委員会や学校で主体的に推進することが望ましく、環境団体と共同で行えるようにすべきである。(市として独自性が出せるものがあったら良いのでは)	市民参加が形骸化していないか? 行政は、グローバルな視点で活動している市民団体の情報やノウハウを活かしていく機能を持ち、コーディネートしていくことが大切。たとえば、総合計画策定にあたっては、団体へ意見募集を行うなど有効に活用すべき。また補助金利用に関しても、適宜に市民意見募集を行い活きた使い方にすべき。 登録し実際に活動している市民団体(特に若い人たちが頑張っているのを)、積極的にアプローチして、意見を聞いてもらって、吸い上げて計画に反映してもらいたい。	
4) 活動運営の課題	環境学習・保全活動に意欲のある人が限られているため、結果として、運営者が限られ、活動者が絞られてしまう。どちらかと言えば、高齢者の会員が多く、若い年代の新人の加入者が極端に少ない。(世代間の交流ができるシステムがあれば良い)	農業振興に対する予算枠が他市に比べて低い。施策に関しても、個々の農家が直売を実施し飽和に近い状態にも関わらず、相変わらず共同直売所設置を、などと何年たっても同じ施策の域を出ない。 農家と市民が共有出来る都市型農業とは、農の多面的機能の相互理解があって初めて成り立つ。そのような公益的な側面をもつ施策として、これからの都市づくりを捉えていく必要がある。	
5) 市のまちづくりに関する認識・課題	(1) 母子や高齢者にとって、地元商店街の元気が必要。地域商店街は閉塞状況にあり、アドバイザーが必要ではないか。 (2) 行政施設などハード面は整ってきたが、ソフト面が弱いように思う。 たとえば、施設の利用状況には偏りがあるように見受けられ、利用率の低い施設は無料で貸し出したり、事業者へ有料で貸し出したりすることで、利用の拡大を考える。 交通不便の施設では、イベント時に、臨時バスの運行を計画するなど、弱者へ配慮する (3) 工場が市から出てしまっており、文化面で特色ある市を建設すべきと考える。市民参加の文化活動を盛んにする必要がある。	市民参加を標榜する市としての意見は前述のとおり 農地の相続に関わる開発で今後変貌していくであろう街並みの形成に不安を感じる。緑陰のある街並みの形成を望む。 ここ8年近く環境・食育学習に携わって思う事は、子どもたちの実体験を通じた学習機会の大切さ。自分と人にとっての未来のビジョンを描く創造性が育つまちになって欲しい。 東日本大震災は、依存型暮らしの危険性を露呈しました。生きることに必要な最低限の要素は地域の中で保全していく事の大切さも。	
6) 地域活性化に関する市政運営	[市として力点を置くべき点は] 1) 母子と高齢者が生きがいを持って生活できる市の建設 2) 異世代間が交流できる文化活動の促進 3) 以上の展開としてのビジネスの開発 まず母子と高齢者を対象とした生きがい調査を実施してみる必要があると考える。 [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] ボランティアのような社会的義務のない、高齢者が楽しむための集団づくりです。有能な高齢者に起業を勧めて、高齢者だけでプチビジネスの展開。賃金目的でなくマイペースで働く場所があることで心身の健康維持につながる [活用すべき資源やPRできる点] 高齢者の経験と知識が活用できる 高齢者の心身の健康維持につながり、医療費や介護費用の低下が期待できる [その他] 税による支援は最小限に止めるが、行政からの情報提供とアドバイスは手厚く行う必要がある。ビジネスモデルを実験的に立ち上げてみるのはいかがでしょうか。	[市として力点を置くべき点は] ・環境保全資源循環型まちづくり 農家のトラクターなどに、二酸化炭素を増やさないバイオディーゼル燃料(BDF)利用のまちづくりを先進的に進める(八王子、稲毛、小平に例) ・東大農場の知的財産と協働した施策づくり ・環境・食育を大切にしたい、人の創造力が生きるまち (学校での総合学習を行っている、実体験がいかに大切かを感じている) [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] ・市民と農家・農地・農業が共存できるまち 農地がもつ多面的機能を、農家の理解を求めつつ公益性と捉え、景観形成に努める。 [活用すべき資源やPRできる点] 前述 [その他] 農業振興計画に関して、東京都農業会議の主導で振興計画に独自性が見られない、体験型農園等特定の施策に偏り、既存の施策を整理統合する考えでしかない 提携型の公園は、維持管理に非常にお金がかかることを考慮する必要がある。 東大農場は、そのまま残すということでお金がかからないところに価値・意義がある	

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(3-2.環境にやさしいまちづくり)

		環境 / 景観 / ゴミ(2)	
		西東京市環境サポーター はちどりの会	西東京 菜の花エコ・プロジェクト
7)市との関係 (支援や連携等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習会・見学会で機関を訪問するときも、市によるお墨付きがあると活動の範囲が広がり、ありがたい。 ・ 環境学習などの活動にあたって、市の施設、備品などの使用料を検討してほしい。 ・ 利用率の悪い施設・備品などは安くまたは無料にして、利用誘導をすべきでは。 ・ 環境問題の1つに「食と農業の関係」があり、異世代間で交流しながら考えていくには調理実習が極めて効果的であり、市民団体が使用できる調理施設の拡充を望む。 	<p>大学連携事業・ひまわりプロジェクト、公民館主催事業「農業を知る講座」での環境・食育学習に連携している。</p> <p>本市でのBDF利用は、産業振興課、教育委員会、ごみ減量推進課、協働コミュニティ課など多岐にわたり、どこで誰が責任を持って推進していくのかが不明で、肝心のエネルギー利用に対する具体的効果を示せないという悩みを抱えてきた。</p> <p>究極の資源循環である公益的な地域内エネルギーの確立に向けての提案に、積極的な支援を総合計画に盛り込んで欲しい。</p>	
8)他の企業や団体との協働・連携	<p>[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題]</p> <p>本会の目的となる環境保全の活動に適う団体や催し物には積極的に連携や参画を行う</p> <p>[これまでの実績や現況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アースデイの参加 ・ NPOフェスティバルの参加 ・ Mec西東京への参加活動と講演会の共同開催 	<p>[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題]</p> <p>産業団体(商工会や農協など)や市民団体、事業者など本市は豊かな財を持っている。これらを積極的にネットワーク化をしているゆめこらぼのの総合的な情報と機能を活かし、各団体の支援策を行った方が効果が高い(幅広い公益性を持って、市民同士の次へのステップアップにつながる)。</p> <p>課によっては、市民との協働や市民参加についての理解が薄いと思えるところも有る。</p> <p>[これまでの実績や現況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「山田周生さん講演会とBDFプラント紹介」市との共催事業 ・ 損保ジャパンとの菜の花、ひまわり栽培の実験は今後の連携の糸口 職員は協働意識を常にもち、応用していけるよう今後も期待したい。 <p>[今後の可能性]</p> <p>過去9年間の関係団体・事業者、市との連携を基本に据え、BDFの活用への糸口と農がもつ多面的機能を解りやすく実践型を持って環境・食育学習に活かしていく。</p> <p>ひまわりプロジェクトに参加しながら農家や東大農場、市との連携を持って、生きた学習を行い、BDFの実現に向けて行く。</p>	
9)今後の新しい展開・取組み	<p>ひき続き、定款のとおり、環境学習・保全活動を中心に活動する予定。今後、学習意欲・活動意欲の高い人材を育成することに尽力したいと思っている。</p>	<p>BDFの実現に向け、国都の補助金や民間の基金助成金の獲得をめざす(本来的には、一市民団体で行えることではないので市の支援をお願いをしたい)</p> <p>学校給食で出た廃食用油をBDFにし農家のトラクターで利用してもらう事による環境保全型資源循環のまちづくりとして教育的にも活かしていきたい。</p> <p>また、高齢者施設などから出る良質な廃食用油も貴重な財と考える。</p> <p><u>BDFを使ったトラクター活用は、小さな農家レベルでは、災害時に有効である。</u></p>	
10)西東京市への期待と注文	<ol style="list-style-type: none"> 1) NPO活動は、総じて、情報発信力が弱い。発信する場が少ないからだと思っている。今後、市報をはじめ、掲示板などで活動を情報発信できる場を充実してほしい。 2) また、高齢者に配慮して、市報などの印刷媒体の文字を大きくし、読みやすくする必要がある。高齢化がIT化のネックになっているので、工夫が必要だと思う。 3) 石神井川がゴミ捨て場となっている。清掃ボランティア活動の展開が必要と考える。 	<p>市と市民が手を携えて進むビジョンに向けての市民参加とボランティア活動を基本とし、公益性のある税源の使い方になるように市政の軸足を変え、横並び行政から脱却し市民と共に歩む市になって欲しいと願う。</p> <p>行政内の情報交換を活発化し、横断的に市民活動が生かされ自立に向かう事が出来るように工夫をして欲しい。行政全体に、リスクを覚悟の上でチャレンジする精神が無い。財政至上主義に陥り、財政上の数字で全ての施策を見ていたのでは、市民のアイデアを生かすことなど全く出来ないと思える。</p> <p>・ <u>学校などでの環境学習は実績が多数あり、是非活用してもらいたい。</u></p> <p>・ <u>施策には、一つの部署でできないことが多々ある。そのときの行政内での対応や進めなどのモデルを作ってもらいたい</u></p>	
総括) 重要視しているポイント	<p>高齢者と母子など異世代間が交流でき、生きがいのもてるまちづくり (文化活動や環境に関する活動などを通して)</p>	<p>市と市民が手を携えて進むビジョンに向けての市民参加とボランティア活動を基本とし、公益性のある税源の使い方になるように市政の軸足を変え、横並び行政から脱却し市民と共に歩む市になって欲しいと願う。</p>	

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(4-1.安全で快適に暮らすまちづくり)

都市計画 / 上下水道 / 防犯・防災(1)			
	独立行政法人 都市再生機構 東日本賃貸住宅本部	ひばりが丘団地自治会	西原グリーンハイツ住宅団地管理組合法人
1) 主な事業や活動内容	活動エリア: ひばりが丘団地(ひばりが丘パークヒルズ) 主な事業: 団地の建て替え、道路整備、公園整備、団地の管理運営 ・面積約34haの団地建替 ・1213戸の団地管理運営、291戸建設中など ・面積約10haの土地譲渡など	活動エリア: ひばりが丘団地(パークヒルズ) 主な事業: 団地居住者を会員とする自治会の運営たんぼば幼児教室(幼稚園類似施設)の運営 平成16年までの居住戸数2700戸、現在1500戸 桜祭り夏祭りの自主運営 開催時約3000人集落 タンボポ幼児教室 3~5歳児 約50名 2歳児 約30名 自治会の上部団体、東京多摩公団住宅自治会協議会・全国公団住宅自治会協議会を中心とした諸活動	活動エリア: 西原グリーンハイツ 主な事業: 団地管理 西原4丁目地域活動への参加中心とした諸活動
2) 良い点・改善が必要な点		良い点: 入居開始以来50余年、当時は保谷、田無、東久留米の3町にまたがり自治会も深く信頼のあるコミュニティーを築いている。古い居住者は終のすみかとしている人が多い。 改善が必要な点: 公募により入居してくる若い人との交流 自治会役員の世代交代	改善が必要な点: ・隣市と接しているためか、役所・出張所が多い ・手続きの種類によって、行く庁舎が異なりわかりづらい
3) 現状認識・対応		建て替え事業完了後の自治会体制を整えることが第一と考えている。	組合員の高齢化
4) 活動運営の課題		自治会役員の高齢化に伴い、自治会の運営を託す次世代の人材育成ができていないている。	組合員の高齢化
5) 市のまちづくりに関する認識・課題			・団地内だけでなく周辺は緑が多いが、一方、夜間は暗く、治安上・防犯上不安である。 ・西原総合施設の有効利用(郷土資料室のイメージアップを! せっかくの資料がもったいない。学校教育などへの利用も!)
6) 地域活性化に関する市政運営			[市として力点を置くべき点は] 新青梅街道、西武新宿線で分断された南北の交流 [活用すべき資源やPRできる点] ・東大農場 ・郷土資料 ・田無・東伏見稲荷神社 ・田無駅、ひばりが丘駅(急行停車) ・早大(東伏見)
7) 市との関係(支援や連携等)	・H20.6に策定した、ひばりが丘地区・地区計画に基づき、ひばりが丘団地の建て替え事業を進めてきたところであり、現在、賃貸住宅建設や民間活力による多様な住宅供給のほか、公共施設整備を進めているところ。 ・公益施設については、保育園や児童館などの子育て支援施設整備(済)特別養護老人ホーム(H24.4 開設予定)や介護老人保健施設(H24.6 開設予定)などの高齢者支援施設整備を実施。 ・公共施設については、都市計画道路3・5・10号線の整備のほか、団地内の道路や公園整備を推進しているところ。 ・今後も街づくりの主体となる西東京市の協力が必要である。	中層(4階)、低層(1戸・テラス)から高層住宅に建て替えられ、住まいの状況がかなり変化し、以前のような階段毎の交流、テラス住宅の両隣の交流がなくなったことにより、居住者間の交流が少なくなった。 孤独死を防止するために包括事業センター、民生委員、自治会、管理事務所が定期的に情報交換を行う、連絡会を行っている。	
8) 他の企業や団体との協働・連携		[これまでの実績や現況] ・自治会創立50周年(H23)の活動実績 ・自治会を中心とした生協づくり、保育の会、幼児教室づくり ・その時代に合った企業(西武バス、鉄道、電話・ガス)との交渉	
9) 今後の新しい展開・取組み			
10) 西東京市への期待と注文			新しいことばかり取り組むのではなく、地域の歴史・文化といったベーシックなものも少しは必要だと思います。(田無宿の面影はほとんどないようです) 愛着が湧かないのではないのでしょうか。(例えば、被災地での復旧・復興にあたって、心の拠り所は歴史・文化だったりしています) 東京近郊の農地の保全
総括) 重要視しているポイント	今後も街づくりの主体となる西東京市の協力が必要である。	自治会や役員の高齢化に伴い、新たに入ってくる若い人との交流、自治会役員の世代交代など、よりいっそうの交流を深めていくことが必要。	地域の歴史・文化といった心の拠り所となるベーシックなものを活かしてほしい。

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(4-2.安全で快適に暮らすまちづくり)

都市計画 / 上下水道 / 防犯・防災(2)			
	西武鉄道株式会社	西武バス株式会社	関東バス 武蔵野営業所
1) 主な事業や活動内容	活動エリア: 主として埼玉県、東京都 主な事業: 鉄道事業、沿線観光事業、不動産事業 市内に2路線、5駅ある、輸送人員 169万人(2010年度1日平均)	活動エリア: 東京都北西部や埼玉県南西部 活動内容: 路線バスの運行や池袋から新潟・北陸方面への高速バスの運行、西武線沿線などから、羽田空港、成田空港への空港連絡バスを運行 11営業所で860両(内、高速・空港用66両)の車両 1区11市より依頼を受けてコミュニティバスを運行	活動エリア: 田無、保谷、柳沢、向台町など 活動内容: ・一般集合旅客自動車運送事業(路線バス) ・はなバス4号路線を受託運行 平日で約1400回市域を運行 その他、観光バス、夜行バス、空港バス、コミュニティバス(4自治体)
2) 良い点・改善が必要な点	良い点: 東京圏におけるヘッドタウンとして、乗降人員が上位の重要エリアである。(特に田無、ひばりヶ丘、保谷駅は重要) 改善が必要な点: 今後は人口減少、少子高齢化が推測、何らかの策が必要 平成3年から乗降人員が減ってきている(埼玉ほどではないが、区部よりは悪い)	良い点: 市内に西原車庫を設置してひばりヶ丘～田無～武蔵境駅などの路線バスを運行 人口密集ということもあって、利用客も多く売り上げは好調 改善が必要な点: ・バス、鉄道の利用者が多い割に駅ロータリーが整備されていない(ひばりヶ丘駅北口、田無駅南口) ・駅ロータリーへ通じる道路が整備されていないため、路線バスの乗り入れができない。(保谷駅北口) ・整備されている駅でも、スペースが十分でないためバスの乗り入れができなかったり、効率的な運行ができない。(保谷駅南口、ひばりヶ丘駅南口、西武柳沢駅南口、田無駅北口)	良い点: 武蔵野大学やヴィーガーデンといった大口の需要があり、まとまった収入源が安定して存在している。 改善が必要な点: ・多摩六都科学館からの一般路線は収支状況が厳しく、今後何らかの施策が必要である。 ・駅前の環境が、大型バスの走行には問題あり
3) 現状認識・対応	多様化するお客様のニーズを的確にとらえたサービスの提供や、環境問題、地域との共生に積極的に取り組むことにより、利用者の暮らしを支える企業であり続ける	・少子高齢化によりバスの必要性は高まるが、バス利用者は減少し、売り上げの減少も見込まれる。より良い公共交通サービスの提供のため、コミュニティバスと連携を進めるなど、自治体とともに検討を実施したい ・路線設定は、経営の厳しさから需要があるところにしかルート設定できないのが現状、その他、交通空白地帯にはコミュニティバスという棲み分けになっている	乗りやすくてわかりやすいバスをめざし、施設や車両の改善を進めている
4) 活動運営の課題	貴市当社駅については、バリアフリー化は実施済み。今後、さらなる利便性向上及び価値向上へ向けた事業を展開していく必要がある。	○少子高齢化の進行(人口の減少)は売り上げ減少を招くだけでなく、大型二種免許取得者の減少も招くことから、今後も安定して人材確保ができるかが課題 ○道路渋滞が増え、交通環境整備が課題	少子高齢化が進む中で人々の移動が減り、不況による影響でバスから自転車などへのシフトが運賃収入の減少となっている。 大型二種免許取得者の減少も課題
5) 市のまちづくりに関する認識・課題	都市計画決定されている駅前広場計画の推進(ひばりヶ丘、田無) このことによりまちの顔づくり、中心市街地の活性化が図られると共に、鉄道とバスなど交通結節機能の強化が図られる。	保谷駅南口ロータリーの供用開始が大幅に遅れるなど進捗は非常に遅い。	・道路整備が遅れていると感じる。大型バスの需要が少なからずある中、狭い道路をバスが通行することに疑問を感じる人も大勢いると思う。 ・青梅街道から北側が特に狭い。車道と歩道が区別されていない道路がある。
6) 地域活性化に関する市政運営	[市として力点を置くべき点は] 少子高齢化が進む中、地域活性化の中心的存在であるファミリー層が定住しやすい環境を作る(ファミリー層への住宅供給に寄与する用途変更及び地区計画施策) [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 防災性、コミュニティ形成などの点から施策を講じ、イメージ作りを実施 [活用すべき資源やPRできる点] ・地盤の高低差が小さいなど、住宅立地として適している(武蔵野台地上にある) ・都心へアクセスしやすい(快速、急行が停車) ・市内大学(早稲田大学や武蔵野大学など)とのさらなる連携	現在整備が進められている「調布保谷線」や「ひばりヶ丘駅北口ロータリー」の完成に伴うバス路線の利便性向上(内容は検討中)	[市として力点を置くべき点は] ・地味なイメージがあるのでPR活動に力を入れたいと思う。 [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 田無、保谷の(昔の)ネーミングを活かす / 出身有名人を起用 B級グルメのイベント / ゆるキャラの制定
7) 市との関係(支援や連携等)	定住者増や観光資源PRなどの点から鉄道事業者として協力(川越市は観光をPRし、定住者増につながっている)	現在のサービスレベルの維持・向上させた路線バスの運行の維持こそが当社が求められている役割と考えている。 そのために、駅ロータリーの整備、バス周辺所の整備等、バスの運行しやすい環境づくりを期待している。(バス停に屋根、ベンチ、駐輪場など・新座市で実例あり)	・はなバス第4ルートを受託運行 ・駅ロータリー、上屋、ベンチの整備など 市とのやりとりは、案件によって担当部署が変わってくるので、全体に横串を入れてくれる部署があるとありがたい。

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(4-2.安全で快適に暮らすまちづくり)

都市計画 / 上下水道 / 防犯・防災(2)			
	西武鉄道株式会社	西武バス株式会社	関東バス 武蔵野営業所
8)他の企業や団体との協働・連携	<p>[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 考え方 地域と一体になり、親しまれる鉄道を目指している。 課題 企業間の連携は利益問題が絡むこと(間に行政が入ってもらえるといい)</p> <p>[これまでの実績や現況] ・時計会社(シチズン)から当社施設へ時計提出依頼があり、実施 ・当社駅ナカ店舗に地元企業が出店(観光案内所を行政が設置される場合は安くお貸しできる)</p> <p>[今後の可能性] まちづくりやイベントなど、各企業間の相乗効果が見込めるのであれば積極的に連携(乗り換えのシームレス化の部分など(屋根が連続している)/観光の面でも、自治体を超えて連携した方が良い場合がある) ・観光振興は、自治体を中心になってやっている。沿線にも蔵のまちづくり・川越、漫画のまち・練馬など多々ある。 ・自治体との連携については、例えば、帰宅困難者の扱いなど、自治体ごとの考え方にも温度差がある。自治体自体の調整、現場の対応も必要であり、有事の時の対応は、事前の検討、調整が必要である。</p>	<p>[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 公共交通サービスの充実のための連携についてはできる限り協力したい。(路線バス事業は法規制が厳しく規制を満たす範囲に限られる)</p> <p>[これまでの実績や現況] 西東京市産業振興マスタープランに基づいて開催されている、行政と大手事業者の懇談会に参加して定期的に意見交換している。(観光バスマップなど)</p> <p>[今後の可能性] 上記懇談会への参加などを通じて引き続き連携を図っていきたい。</p> <p>市とのやりとりは、案件によって担当部署が変わってくる。(防災は安全防災、バリアフリーは交通、まちづくりは都市や企画調整など)連携については、自治体にただ、全体を横にみる部署があるとありがたい。</p>	<p>[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 大震災など災害が発生した場合の通信手段の確立(昨年の震災時は通信が途絶し、徒歩で連絡した。市の前線基地と我々の連絡手段確保、鉄道事業者との連携も検討や協力が必要)</p>
9)今後の新しい展開・取組み	<p>・安全を基本にすべての事業、サービスを推進し、地域社会や地球環境に配慮した時代を先取りするサービスの提供をできるように努めている</p> <p>・有事の際の、刻々と変わる情報提供については、デジタルサイネージ(電子広告版)や行き先表示をLCD(液晶パネル)という媒体に変えて、可変する情報を流せるようにデジタル媒体の利用を検討している。</p>	<p>現在整備が進められている「調布保谷線」や「ひばりが丘駅北口ロータリー」の完成に伴うバス路線の利便性向上(内容は検討中)</p>	
10)西東京市への期待と注文	<p>・ファミリー層の定住、観光資源等のPRによる来街者の増加に向けた施策に期待 ・積極的な隣市、区などとの事業の共同化(例:はなバス、みどりバス、ムーバス) ・駅周辺の賑わいの推進(中心市街地の活性化、高度利用の推進など)</p>		<p>・道路環境の整備を求めます。 ・駅前ロータリーの整備、アクセス道路の拡張。 ・魅力ある駅商業施設の充実。</p>
総括)重要視しているポイント	<p>ファミリー層の定住、観光資源等のPRによる来街者の増加など、利用者が増加することには何でも協力する。企業間や自治体の連携が必要なことも多くあり、行政が中に入ってもらえるとありがたい。</p>	<p>現在のサービスレベルの維持・向上が役割であり、そのために、駅ロータリーの整備、バス周辺所の整備等、バスの運行しやすい環境づくりを市が中心になって進めてもらいたい</p>	<p>未整備の駅前ロータリー、狭く歩道の貧弱な道路環境の整備を進めてもらいたい。また、大震災など災害が発生した場合の通信手段の確立などを、市や他の交通事業者とともに連携して検討したい</p>

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(4-3.安全で快適に暮らすまちづくり)

		都市計画 / 上下水道 / 防犯・防災(3)	
		田無警察署	西東京消防署
1) 主な事業や活動内容	活動エリア: 西東京市、東久留米市	活動エリア: 主に西東京市内全域及び隣接区 災害の規模や要請等により、都内全域及び隣接県等に出場あるいは派遣 活動内容: 災害対応 / 火災予防 / 震災対策 / 防火防災対策 / 防火防災思想の普及 火災件数51件・救助件数279件・危険排除件数60件 救急出場件数9,635件・防火防災訓練実施件数333件 その他、市民まつりのパレードに参加、消防ブース等において、防火防災訓練、車両展示(梯子車搭乗体験)等を実施	
2) 良い点・改善が必要な点	良い点: 改善が必要な点: 振り込み詐欺が、61件、今年に入っても14件(3月現在)発生	良い点: 市との連携が良好、他機関(警察、自衛隊等)とも災害時や訓練時等に おいて連携が図れている 改善が必要な点: ・防火防災訓練に参加しない市民に対して、更なる防災行動力を高めること ・平常時・震災時を含め災害時要援護者の安全を確保するため、さらなる関係行政機関と連携する仕組みの構築。(具体的には災害時要援護者の情報等)	
3) 現状認識・対応	・振り込み詐欺の知識を、被害の多い地域、対象者に対し広報活動を進めている。 ・防犯コーナーを設けて啓発活動をしていく ・振り込み詐欺防止キャンペーンの実施(田無駅、東久留米駅で1回/月) ・どれだけ浸透しているかが重要で、金融機関に協力を仰ぎ、声を掛けてもらうなど連携し防止を図っている	・多くの高齢化世帯等に対し、災害時要援護者に対する災害時等の対応を検討 ・消防法令違反の建物や店舗が確認できる違反対象物の公表制度等を行っている。 市民自ら店舗等の利用を判断できるように、安全な建物を確保する施策を推進	
4) 活動運営の課題	・立地的には、駅から近いが敷地が狭い。来庁者に対しての駐車スペースが不足 (移転などの話は進んでいる)	・急激な世代交代が進む大量退職期に伴う職員教育の充実強化が早急な課題であり、訓練を集中的かつ効率的に実施ができるスペースの確保が必要。 ・救急出動件数の増加に伴う円滑な対応や救急相談体制の確立。 バイスタンダーによる応急手当の普及のための防災教育の充実 ・東日本大震災の教訓により、震災時に有効な消防水利の整備と、地域や関係機関との連携を強化するため、市が中心となった防火防災訓練の実施が必要。 ・市民の自助・共助意識を醸成するために、幼児期からの防災教育、防火防災訓練への参画、使用できるスペースの確保、学校教育プログラムの改正が必要。 ・住宅火災による死者軽減のため、住宅用防災機器等の普及及び維持管理の取組が必要 ・高齢化の進展に対する災害時要援護者の安全対策推進のための関係機関の情報共有の仕組みが必要。	
5) 市のまちづくりに関する認識・課題	「犯罪のない安全で安心なまち・西東京」の推進に関する覚え書きの締結。 「犯罪のおきにくいまちをつくる」を目指す。そのため、市、警察、市民が一体となった防犯対策の推進が必要で、きれいで整然とした環境の維持を目指す ・落書き消去(昨年、都の予算で2か所実施) ・防犯カメラの設置(予算を要望している)	自治会等が少なくことから、地域のつながりのある、互いに連携が取れる地域へと改善し、災害時や平常時においても、連携し助け合う災害に強い地域となつてほしい	
6) 地域活性化に関する市政運営	「貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題」 防犯協会、母の会、各自治会、育成会などの協力のもと防犯活動を推進 「これまでの実績や現況」 防犯訓練、防犯講話の実施(自治会、老人会、企業など) 「今後の可能性」	「市として力点を置くべき点は」 ・地域コミュニティの強化を図り、防災意識や共助意識の共有を図り地震等の災害に強く、災害時要援護者も安心して生活できるまちづくりに取組む。 ・「防災のまち」などの「市のカラー」を作り出すべきではと考える。 「市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア」 ・東日本大震災以降の防災行動力向上へ意識の高まりをとらえて、「地域の絆づくり」とともに、そのイメージ作りも取り入れた方がいいと考える 「活用すべき資源やPRできる点」 ・防火防災訓練を行うことができるとともに、災害のプロとして、広く市民や子供たちに災害への備えを教える人材がいる。 消火器取扱訓練、応急救護訓練(AED取り扱いを含む)、煙体験、通報訓練、起震車による身体防護訓練、救助訓練等 車両展示(梯子車搭乗等)、消防演習等も実施 ・都営住宅の生活用水が直接通水へ移行。不用となった受水槽を防火水槽へ転用し、災害時の水利として活用することができる。 「その他」 調布市では、平成24年度から4月第4土曜日を「防災教育の日」とし、学校、保護者、地域の連携による防災教育と防災訓練を全小・中学校一斉に実施している(地域の連携活動として、防火防災訓練等を入れ込んで地域の活性化の一役を担っている)	
7) 市との関係(支援や連携等)	本年、「犯罪のない安全で安心なまち・西東京」の推進に関する覚え書きの締結 「重点の犯罪として」 ・振り込み詐欺防止 ・子どもを対象にした犯罪防止(ひったくり、侵入、万引き、車上狙いなど) ○市民の方にボランティアとして、振り込み詐欺撲滅隊として協力してもらっている ○規範意識の向上として柔剣道を教えている。学校にはセーフティ教室を実施 ○根本的な安全・安心の確保には、地域に密着した市民の意識が大きい(規範意識の向上、コミュニティの問題)。規制や規則で連絡網がなくリアルタイムで広報できないことも問題。 ○交番は世界に誇れるシステム。但し、世の中の規範知識が崩れてしまい、人口も増え続けている中限りがある。現状では追いつかない限界がある。交番だけでなく、パトロールや防犯カメラなど多様な対策が必要	・災害現場における連携や各種訓練等における各機関との連携において、西東京市ともに活動を実施	

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(4-3.安全で快適に暮らすまちづくり)

都市計画 / 上下水道 / 防犯・防災(3)		
	田無警察署	西東京消防署
8) 他の企業や団体との協働・連携	<p>[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題]</p> <p>防犯協会、母の会、各自治会、育成会などの協力のもと防犯活動を推進</p> <p>[これまでの実績や現況]</p> <p>防犯訓練、防犯講話の実施(自治会、老人会、企業など)</p> <p>[今後の可能性]</p>	<p>[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 防火防災訓練に参加しない企業や団体に対して、いかに防災意識の向上を図るか NPO等の活動(向上している)実態が把握できる仕組みが必要 <p>[これまでの実績や現況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 防火防災訓練、自衛消防訓練、救命講習等を企業や団体と連携し実施 災害時要援護者に対する防火防災診断等を企業や民生委員と連携し実施 企業等と連携し震災を踏まえた防火・防災管理体制の充実強化 企業や団体に対して、家具類の転倒・落下・移動防止対策の促進 <p>[今後の可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業や団体に対し、合同で防火防災訓練等実施することで、自助、共助の意識の高揚が図れる。
9) 今後の新しい展開・取組み	<p><u>お互いに連携を強化していくことが大切</u></p> <p><u>どのようにしたら共有化や連携ができるか?</u></p> <p>高齢者を中心にしたボランティアを結集しているが、若い人は出てこない。この人たちと日頃からどうつながりを持つかが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> バイスタンダーによる応急手当実施率の向上 小学校高学年に対して救命講習の受講機会の拡大 / 救命入門コース及びステップアップ講習制度を導入 / AEDの使用方法を含めた救命講習を実施 東日本大震災により浮き彫りとなった課題への対応 長周期地震を含めた揺れによる家具類の移動への対策促進 / 帰宅困難者対策の推進 高校生の災害時支援ボランティアへ育成などの総合防災教育推進 災害時要援護者の安全対策推進 地域の団体等との連携を推進し、地域全体で災害時要援護者を見守る環境促進 <p>Q.どのようにしたら共有化や連携ができるか?</p> <p>調布市は、学校単位からはじめた。保護者をターゲットにNPO、商店会を集めて、コーディネータ役を決めた。その枠組みで学校を舞台にイベントなどを学校単位で実施している。(学校は子ども親、高齢者とつながってくる)</p> <p>西東京市で起きうる災害の想定を踏まえた方針を、市として何か持っている必要がある。高齢化がさらに深刻になる。空屋が増えたり、体が不自由な人が住んでいる古い建物の存在、倒壊が問題かと思われる。</p> <p>帰宅困難者の対策については、交通の要所であり、都心から帰宅する人に対する給水やトイレなどの対応は必要かと思われる。</p>
10) 西東京市への期待と注文	<p>○防犯カメラの設置、活用(犯罪防止、検挙についても効果が高い)</p> <p>設置場所の分析、既存設置箇所の把握を進め、必要箇所を決めていく</p> <p>現在市では、いこいの森公園に8台設置(ひばり地区なども欲しい)</p> <p>○防犯対策としての街灯設置</p> <p>○振り込め詐欺対策、底辺に対する働きかけの推進(個人情報保護法などにより、だれがどこに住んでいるかわからないという現状で、高齢者情報提供をお願いしたい)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自治会等、地域のつながりを高め、防火防災訓練等を通じた災害時の連携体制強化 すべての学校に防災教育を取り入れ、防災意識の高揚を図る 地域の防災市民組織や自治会に対してD級可搬ポンプを配備、地域の防災行動力を向上 医師と消防との連携を強化し救急救命体制の強化を図る。市民に対しては、救命講習によるAED等の周知を図る。 住宅用火災警報器設置、救命講習受講等に対する市の支援や助成を行い、安心して住める街づくりを推進 精強な職員の育成や市民の防災行動力を高めるための市所有の空地等の提供 防災訓練は集まる場所があるだけでも意義がある 市民が防火防災訓練等に利用できるコミュニティスペースの確保 防災行動力向上のための起震車の導入(練馬区などにある)
総括) 重要視しているポイント	<p>「犯罪のおきにくいまちをつくる」を目指して、防犯や安全・安心を確保するには、地域として規範意識の向上やコミュニティ、情報連絡体制など、市、警察、市民が一体となった、地域に密着した防犯対策の取り組みが不可欠になっている。</p>	<p>緊急時に備えて、日頃から自助・共助の視点に立った啓発・訓練など防災意識の向上が必要であるが、いかに広げ全体の底上げを図るかが重要であり、市や地域と一体となって地道に進めることが大切で、あらゆる層がかかわる学校を中心に取り組む事例もあり効果がでている。</p>

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(4・4・安全で快適に暮らすまちづくり)

都市計画 / 上下水道 / 防犯・防災(4)			
	ふれあい広場	西東京市消防団	西東京市防犯協会
1) 主な事業や活動内容	活動エリア: 西東京市保谷第一小学校区内(4500世帯、11,500人) 活動内容: 「安心して暮らせる街に」(安全で安心な街 / 交流のある楽しい街 / お互いに支え合う優しい街 / 花とみどりいっぱい美しいまち)を目標に、ふれあいのまちづくりを推進している。以下の活動を実施 日常生活を防犯(子供の見守りの視点で)、あやしき公園の清掃活動(毎月) フリーマーケットの開催(年1回)、小学校における昔遊び指導 その他、下保谷4丁目新高橋屋敷林及びオープンガーデンの保守作業、高齢者の茶話会(福祉会館にて)	活動エリア: 市内全域及び隣接市(小平、東久留米、武蔵野) 活動内容: 災害活動(火災、水害ほか) その他、北多摩地区の事業参加	活動エリア: 市内全域 活動内容: 犯罪防止活動が主であり、主には昼夜のパトロール、駅頭キャンペーン、児童の登下校時における見守り、保育園・児童館・地域の催物の警備や交通整理 活動規模は事業により異なる 防災訓練・市民まつり・市の一斉パトロール等は50~70位、地域の催物、キャンペーン、パトロール、広報活動等は5名~15名位 活動の基本は地域(支部)活動を基本としている。 市民が安全・安心に暮らすための活動は「無限」のものであるを基本としている。
2) 良い点・改善が必要な点	良い点: 小学校(保谷小)が市民に開かれ、地域の中がまとまっている 福祉会館が存在していることで、高齢者の生活が楽しい 新しく公民館図書館(保谷駅)ができて便利 改善が必要な点: 小学校は防災の拠点でもあるのでもっと開かれたものとなって欲しい(最重要)。 下保谷福祉会館(1F)と児童センター(2F、地下) 高齢者と子供がお互いに顔の見える関係であってほしい。	良い点: 災害時における大水害(一級河川)崖崩れなどの心配はない地域 改善が必要な点: 3月11日では、西武線における帰宅困難者が問題であり主要幹線の渋滞など	改善が必要な点: はなバスの第二及び第三ルートは、合併時には小金井公園より保谷庁舎まで直通であったが、東伏見駅で分断したのはなぜか。(当初のルートは、新町方面の市民が、保谷庁舎やこもれびホール等の利用を考慮)早急に復活することを望む。
3) 現状認識・対応	まちづくり活動に若い世代が入ってこない。これからのまちづくりの在り方は小学校とのつながりを重点にすれば児童、保護者など年齢を超えた交流ができる。 首都直下型地震に対する具体的な取り組み 避難所の運営の具体化が全く見えていない	20万人都市が直前であるため、人口に対する早めの行政対応	
4) 活動運営の課題	安全で安心できるまちづくり 地域の人は、まちづくりなどにはあまり関心がないのが実態 市民のサークルや団体があるが、横のつながり(ネットワーク化)ができていない 市には、自治会は3つしかない。入る人も少ない	景気停滞に伴う節約、買い控えによる悪循環	
5) 市のまちづくりに関する認識・課題	市の組織は縦割りで横のつながりが極めて少ない 市長の力で総合力の発揮ができるようにしてもらいたい。 高齢者の茶話会は小学校を単位としているが広すぎる 小学校区の3分の1位の広さが良い(高齢者が遠くて行けない) ・ごみ拾いもごみ減量推進課と環境保全課の両方でやっている。これを合体すれば力が出る。また、防犯についても、まちをきれいにすることから始まる。防犯協会、みどり公園課、まちづくり担当、シルバー人材センターなどでやっている。協力すべき。	消防団という組織から見ると大災害の可能性を考え、西東京市として早めの防災計画を作るべきだと思う。	
6) 地域活性化に関する市政運営	[市として力点を置くべき点は] 首都直下型地震発生時の対応~特に避難所運営の在り方の検討と対策の充実 定年退職者の活用~シルバー人材センターだけでなく、特技を生かしたまちづくり参加 [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 屋敷林を保全するだけでなく、都民にアピールし自然に親しむオアシスとして活用 茶室として活用など(蔵がある) [活用すべき資源やPRできる点] 老人会の活性化~若い世代(退職後の)の活用ができないものか? ・仮に参加の仕組みをつくっても、だれも行動しなければ何にもならない 小学校を地域に開いて、何かやってみよう	安心・安全なまちづくり。	
7) 市との関係(支援や連携等)	小学校区内に住む高齢者を有料ボランティアとして活用させる。24時間、日常生活を通じて見守りできる利点がある。		平成16年4月1日「西東京市犯罪のない安全なまちづくり条例」が施行され、8年前より警視庁より派遣職員が配置されたことにより、田無警察署、市役所、防犯協会の連携が密になり、市民生活の安全が強化された。その後は、年々自主防犯団体が組織されてきたことは成果であった。
8) 他の企業や団体との協働・連携	[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 小学校区内の地域安全連絡会において、学校当局、PTA、青少年育成会、警察、民生児童委員、町会、自治会と連絡会を持っているがさらに充実が必要 [これまでの実績や現況] 上記 安全連絡会は単なる「連絡会」であるが、共通の行動がない [今後の可能性] 首都直下型地震に備えて~地域力のアップ。いざという時の統一した行動ができるようにしたい。	[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 防火、防災のため消防団及び警察との連携を大切にしていく。 [今後の可能性] 防火、防災のため消防団及び警察との連携を大切にしていく。	
9) 今後の新しい展開・取組み	安全で安心なまちの現状は、いざ地震という時でもまちがまとまって被害を最小にして、生活できる環境づくり それに向かって小学校区内各団体サークルをこの方向にまとめていくこと。	消防団員に対する処遇	

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(4-4.安全で快適に暮らすまちづくり)

都市計画 / 上下水道 / 防犯・防災(4)			
	ふれあい広場	西東京市消防団	西東京市防犯協会
10) 西東京市への期待と注文	高齢者はインターネットやパソコンなどの機器に弱い。IT弱者に対する配慮をこれまで以上にしてもらいたい。		(防犯の立場から) 1. 監視カメラの設置(駅周辺、繁華街、駐車場等) 2. 道路は可能な限り拡幅し、ガードレール、歩道柵等により車歩道の分離 3. 街路灯(防犯灯)は、人の行動を視認できる照度にする 4. 公園は外からの見通しのきく程度の植栽と死角をつくらない。また、公園灯は夜間において、人の行動を視認できる程度以上の照明にする。特に便所の設置には考慮する。
総括) 重要視しているポイント	小学校を地域の拠点にもっと開かれたものとなって欲しい。そして、防災拠点として避難所となる学校を、市のリーダーシップで、学校区ごとに避難所運営の仕組み、マニュアルを作るべき。	大災害の可能性を考え、これに備えた計画づくりや日頃の関連機関、市民との連携強化。	「西東京市犯罪のない安全なまちづくり条例」の施行により、田無警察署、市役所、防犯協会の連携が密になり、自主防犯団体が組織され、市民生活の安全が強化されてきたことは成果。さらに、防犯の立場からの安全確保のための対策を進めてもらいたい。 (監視カメラの設置、車歩道の分離、街路灯(防犯灯)、公園灯の改善など)

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(5-1.活力と魅力あるまちづくり)

産業全般(1)				
	西東京商工会	田無商業協同組合	西東京青年会議所	東伏見商栄会
1) 主な事業や活動内容	活動エリア:西東京市全域 主な事業: 小規模事業者支援事業 ・経営相談/融資相談/税務相談等 地域振興事業 商店会振興事業等 西東京市・対象商工業者数/5,130企業 商工会員数/1,874企業 内商業者1,204社、工業者140社、建設業者314社、飲食業者216社 ・市内商店会数/27商店会 会員数は100減って、100増えるイメージ その他: 商工会員事業者福利厚生事業/市民まつり/商工会女性部・青年部活動等	活動エリア: 西東京市、主に田無町2~4丁目 活動内容: 田無名物盆踊り大会/歳末大売り出し/びっくり市 街路灯フラッグ取付け 年数回 その他、プレミアム商品券の販売、田無神社例大祭など	活動エリア: 主に西東京市全域/他地域の青年会議所と市外での活動もある。海外での活動に参加する事もあり 活動内容: 主に自己啓発、青少年育成、社会開発に取り組む。 ・青少年育成事業「わんぱく相撲西東京場所」子ども200~300人 ・その他、メンバー対象、一般対象と事業により異なる ・年間の事業計画以外に、昨年は被災地支援活動(募金、支援物資の収集等)を実施	活動エリア: 東伏見駅の南側と北側の商工業者の団体 で約115店加入 活動内容: 7月に夏祭り2日間来場者数約1万人 10月ふれあい市場の開催地域各団体との共同イベント 東伏見駅南口広場と北口広場にイルミネーション装飾 その他、各行事に東北の物産の販売又震災の募金活動約100万円集め募金
2) 良い点・改善が必要な点	良い点: 市の人口が増加(市場の拡大につながるのでプラス) 改善が必要な点: ・地域全体を盛り上げていく機運が他市に比べて弱いと思う ・商店会連合会がないため、市内商店街全体でのイベント開催や、地域の特産品、地域ブランド等の産出が難しい(議論する場がない) ・製造業の市外流出を防ぐため、工業集積地域などの具体策を検討(周囲の宅地化が進み、用途指定をして、まとまったエリアに集積)		良い点: 「わんぱく相撲」が市民に認知、小学校等の協力が得られるようになった ・NPO、その他市民団体の活動が活発である ・市内に5駅あり、各々の地域に商店街等の活動拠点がある 改善が必要な点: 市民団体等が活動する施設・公園等の使用について、指定管理者が市の管理で融通がきかないところもある	
3) 現状認識・対応	・少子高齢化に対応した商店会づくりへの支援 ・個々の商店ではできない、店舗PR及びネット販売事業支援 駅周辺は頑張っているが、離れると衰退し住宅に変わっている		日本は大きな転換期にあると感じている。何でもまずは新しいもの、方法を取り入れ、その中から有用なものを見出す事を心がけている。 ソーシャルメディアのFacebookもメンバー全員が始めている	全体に企業数が少ない為、地域振興としてIT企業等の企業の誘致が必要に思われる。
4) 活動運営の課題	・商工会の職員人件費が、東京都及び西東京市の補助金で充当されているため、補助金の削減が、事業運営に直結している ・人材育成については、三多摩内の商工会全体で行っている	駅前大型店に集客され、商店街に人の流れが少なくなった。	青年会議所は20~40歳までの年齢制限があり、40歳で卒業となるため、常に人が卒業し、新しい会員を増やさなければならない。地元で商売する若い世代が減ってきており、また、入会しても単年で卒業となる人が多いため、長期的な運動の継続性の確保が心配。	
5) 市のまちづくりに関する認識・課題	・行政のスリム化を考えると、庁舎の統合は必要 ・現在、2か所の事務所運営しているが1か所にすべき。但し、立地面、また旧保谷・田無の商工業者の感情面を考えると、別の場所で市の施設等に移動が理想的	旧保谷市側のまちづくりが多かったのでは	新しい市としての、大胆なチャレンジが期待されていたが、未だに田無、保谷の調整に終始していると感じる。東大農場は変わらず、二庁舎も統一されていない。 ・人間変わること、気持ちが変わり、モチベーションがあがるもの ・合併時に東大農場は、もっと大きく変わると期待していたが、しかし、今はここからつくって発信していければいいのではと思っています。	
6) 地域活性化に関する市政運営	[市として力点を置くべき点は] ・高齢化に対応した商店会づくりや、都市型コミュニティの構築など ・市と商店会・自治会等が一体となった街づくり [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 住宅、人口が増加している市なので、住みよい街を徹底してアピールしていくこと [活用すべき資源やPRできる点] ・11月に開催されている市民まつり(北多摩5市のなかで最大、三多摩でも大きい) ・人口が多いこと、西武線の5駅周辺には、活発な商店会が存在 [その他] 市内での消費活動が少なく、魅力ある商店街・街づくりが必要(若年層は都内・吉祥寺・立川に)	[市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] アイデアを市、市長に出してもなかなか実現しない。 [活用すべき資源やPRできる点] このようなアンケートも、本当に参考になるのか。意見を聞き入れてくれるのか疑問	[市として力点を置くべき点は] 市の元々の資源や、関連するものの誘致により、市外から人を呼び、地元商店街の活性化に繋げる(大型スーパーの誘致ではない) [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 青梅街道沿いの宿場街としての歴史と農業(東大農場、ハーブ)、アニメ、スポーツ等、異なるものを合わせ、市外から人を呼べるようなコンテンツをつくる [活用すべき資源やPRできる点] (西東京市は、はやりの資源はみんな持っている) ・食(の文化や安全性等)の観点からの東大農場 ・アニメ(市外にアピールできるようなもの) ・スポーツ(有名選手の出身地、FC東京等)	
7) 市との関係(支援や連携等)	商店・商店会の活性化事業(5回のスタンプラリー・4回のプレミアム付き商品券) 個々の商店・商店会の自覚を促すことが大切であるが、やはり長いスパンでの支援が必要(これからも市内全体でのイベントを実施)		基本的に青年会議所は公共サービスの提供等、行政の代わりに担う事はできない。ただ、「明るい豊かな社会の実現」という目的に合致する場合において、行政との協働はある。(メンバーは、地元でネットワークを持った人が多くいるので、OBや個人で活躍できる人は、いろいろいるな場面で活躍できるのでは)	

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(5-1.活力と魅力あるまちづくり)

産業全般(1)				
	西東京商工会	田無商業協同組合	西東京青年会議所	東伏見商栄会
8) 他の企業や団体との協働・連携	<p>[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題]</p> <p>市内商工業者の発展が一番の課題であり、その活性化に繋がるには様々な団体と連携していきたい、特に市内で生産する農業関係者とは農商連携が必要と考える(その他、食品製造業、アニメなども)</p> <p>[これまでの実績や現況]</p> <p>特に連携した活動はなく、市民まつりなどのイベントでは協力</p> <p>[今後の可能性]</p> <p>農業者との連携で、市の逸品・名産品・西東京ブランドを考えている</p> <p>市民まつりは、人はたくさん来るが、そこから生まれ、継続するものがない。何か活かすことを考え方らどうか(名物が生まれる、店や企業の情報提供ができるなど)</p>	<p>商店会の連合となる組織を作り、市内商店会が一体となった活動・イベントを提案し、市民とともに活性化を進めていきたい</p>	<p>[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題]</p> <p>あくまで任意団体であるので、法的な拘束はなく、他団体との連携は可能だが、目的が合致している事が前提である(ライオンズクラブ、ロータリークラブなどとは交流)</p> <p>[これまでの実績や現況]</p> <p>・モーツァルト生誕100年事業 ・市民まつり実行委員会 ・献血推進協議会 ・スポーツ祭東京2013実行委員会 ・社会福祉協議会 ・西東京市男女平等参画推進委員会</p> <p>[今後の可能性]</p> <p>単年度制により、その年の理事長の方針による</p>	
9) 今後の新しい展開・取組み	<p>商店会の連合となる組織を作り、市内商店会が一体となった活動・イベントを提案し、市民とともに活性化を進めていきたい</p>		<p>持続的な運動展開の為に、地域から人材を見出し会員拡大する</p>	
10) 西東京市への期待と注文	<p>商店の高齢化・事業継承の問題が、多く考えられるなかで、長い時間をかけた商店街の支援が必要。</p> <p>・高齢化は逆に活かすこともできるのでは(ご用聞き、近いから行ける・出て来てもらう、外出の動機となる病院のついでを利用) 単に買ってもらう意外の何かは必要。</p> <p>・出てきてもらうことに、コミュニティカフェ、民家で弁当など、商店街・商店と福祉や農家などと連携してできないのか、どうしたらできるのか</p> <p>・行政の立場からは、商店街に行って、現場で働いて課題を知って、検証してみたい、それはできるのでないかと思う。</p> <p>・行ってみたいと思う、地域的な名物(食べ物も含めて)をつくらうか?(とげぬき地蔵がそう・流星会まつりも地蔵まつりをやっている)</p> <p>・日曜日など、車を入れなくて、歩きながら買い物ができる商店街があればいいと思うが、</p>	<p>各地域ごとの意見などを聞いてもらいたい。</p>	<p>市民が、新宿や吉祥寺等、市外へ流れるのではなく、市内で楽しめるような魅力づくりをしていく上で、大胆でわかりやすい取り組みをお願いしたい。</p>	
総括) 重要視しているポイント	<p>商店会・商店の活性化には、商店会連合みたいな統合し、意見を出し合い、集約できる場や組織が必要であり、市や市内商工業者、あるいは市民、団体などを含め、連携し一体となった戦略、イベントや名物の提案などできると良い。</p>	<p>地域に密着した、商店からの意見を吸い上げ、意見を言える場が必要</p>	<p>多くの人が来てもらって、市が活性化するのももっともいいこと。東大農場やいこいの森公園等、市の魅力的な資源を最大限に活かして西東京市らしい楽しいまちづくりをすすめていってほしい。</p>	<p>全体に企業数が少ない為、地域振興としてIT企業等の企業の誘致が必要。</p>

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(5-2.活力と魅力あるまちづくり)

		産業全般(2)	
		東京みらい農業協同組合保谷支店	農業体験農園「きたっばら」
1) 主な事業や活動内容	活動エリア: 旧保谷市及び近隣(東村山、東久留米、清瀬) 活動内容: 信用・共済・資産管理・指導・販売・購買 登録団体数(農家): 82	活動エリア: 農園内(103区画の利用者)(田無市北原町 8年目) 活動内容: 野菜栽培の講習会・指導 春/6回、夏・秋/5回 栽培作物 春: トマト、ナス、ピーマン、キュウリ、ズッキーニ、枝豆、大根、カブなど16種 秋: 白菜、大根、キャベツ、ブロッコリー、人参、長ネギ、小松菜等14種 その他、園内における懇親会(春・秋)、味噌作り等 応募が20件/年くらい、やめる人が12件/年くらい、バランスはとれている	
2) 良い点・改善が必要な点	良い点: 地域に密着している点/生産者の周りに消費者が住んでいる 改善が必要な点: 周りに農薬などをまき散らすなど	良い点: 園 側: 安定した収入(4200円/区画)/やりがいがある 様々な年齢、業種の方とコミュニケーション(勉強になる) 利用者側: 初心者でも野菜作りが楽しめる/老後の生きがい 他利用者とのコミュニケーションの場/子供への食育体験の場	
3) 現状認識・対応	グローバル化、農産物の自由化による野菜価格の低迷が続き、後継者不足と高齢化が進んでいる。また、IT化が進むにつれ、個人情報流出などにも注意を払うため、事務管理が多様化となり労力がかかる。 農家の人がIT(パソコン)になれていない部分もあり、使えるようにしていく必要がある	・小さいお子さんへの食育の為の農業体験(教育委員会) ・定年後の方への健康推進の為の農業体験(福祉課) ・取れ立ての野菜(一度に大量)を分ける時などに、コミュニケーションが生まれる ・やってみて、土に触れて農業を理解してもらえ手応えを持った	
4) 活動運営の課題	農業状況は、近年の円高や消費者の買い渋り、安価な品を求める影響から、輸入農畜産物が増加傾向にあり、肥料や飼料原料の国際的な相場上昇が、日本の農業を圧迫する状況にある。また、TPPの発動が騒がれ、消費者の食に対する安全・安心、自給率向上へ向け、JAとして対応が求められている。	肥料、資材が値上がっており、又、堆肥を自分でつくることできない(放射能の関係)為、料金の値上げをしていきたい 講習会で使用しているベンチ・トイレ等が老朽化し、開園8年目を迎え更新したい。 最初の頃は補助が出たが8年目はない。何らかの支援があると助かる 東京都は、青梅に堆肥生産施設がある(都庁食堂の残飯等を集めて活用)	
5) 市のまちづくりに関する認識・課題	農地は、自然空間としての潤いと安らぎの場を提供するばかりでなく、災害時の避難場所としてなど多面的な機能がある。また災害井戸は、災害時必要な水の確保や濁水時の安定的な農産物の生産のため、増やしていく方針で、その維持管理のために補助金を所有者に交付している。(1回やったが、今止まっているのでは、継続が必要ではないか) 市内の約12%が農地であり、農業生産に貴重な緑地空間でもある。都市農業を維持、発展していく事が農地の減少を抑制することにつながる。(温暖化防止、食育)	・地域ごとに野菜・果物の市内産、直売所があるとよい ・小中学校・幼稚園・保育園等への給食食材の地場産確保の仕組み作りの必要性 (学校、市(教育委員会)、農家(組織的)の連携、統括の仕組みが必要) ・調理室の確保(加工品ができるといい/拠点として・販売として) ・小中学生に対する食育(体系だった仕組みづくり)(職場体験を全生徒へ)	
6) 地域活性化に関する市政運営	[市として力点を置くべき点は] 農地の保全や農家の屋敷林など、敷地に関する固定資産税軽減措置。相続税の軽減 (農家は面積が大きいので、現状でも負担が大きいのでは) [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 農産物イメージキャラクター「めぐみちゃん」マークの有効活用と補助金額の増額 (つくるのも、貼るのもお金や手間がかかる。支給するぐらいの支援が欲しい) [活用すべき資源やPRできる点] 農地の活用 ・自然空間としての潤いと安らぎの場を提供する ・災害時に避難場所・温暖化防止・食農教育の場 農家の屋敷林など ・災害時などの安定的な水の確保 市のブランドづくりについて、市の方で弁当を作っているという話を聞いたが、課によって意見が違ったりしている。一元化した検討が必要では	[市として力点を置くべき点は] 緑を残すまちづくり(個人では無理、市で持つか、農協で持つか等の方策が必要) [活用すべき資源やPRできる点] 東大農場、その他大学生(柔軟な頭を活かす) 多様な農地の価値をふまえて、農地を活かすための農家と利用者の間をつないでもらえる場や仕組みが欲しい。(都心の学校の県外、郊外で農業体験を市に集めたらどうか)	
7) 市との関係(支援や連携等)	市の運営による市民参加の共同直売所施設の建設(道の駅みたいな複合販売施設) 市内産農畜産物の販売 市民が自由に販売(フリーマーケット的な形態)できる 市のブランド品をつくり販売 保谷地区には直売所がない。設立に向けて取り組んでいる最中	公共サービスの提供者になる場合、場所・建物・人が必要になると考えるが、場所の確保が一番難しいと思う。提供者への継続的な支援をしていかないと難しいと思う。	
8) 他の企業や団体との協働・連携	[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 農業協同組合(農協)は、農業者が、相互扶助を目的として、農業協同組合法(農協法)に基づき自主的に設立する協同組合で、農業者が、生産や消費活動の相互扶助・協同によって、その経済的社会的地位の向上を図ることを目的としている。 [これまでの実績や現況] 実績 農業者の協同組織の発達を促進することにより、農業生産力の増進及び農業者の経済的地位の向上を図る 現状 組合員の経済事業、信用事業、共済事業等を総合的に営み、組合員の営農、生活に必要なサービスを提供している [今後の可能性] 農政の新たな展開方向を踏まえながら、農協内部の「新たな芽」を検討し、展開させるための課題を詰めていくことが必要	[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 地場産野菜を使用した加工品の製造をしていきたいが、なかなか相手が見つからない。自分たちで製造しようとすると、場所・建物の問題にぶつかる(出合いの場が必要) [今後の可能性] ・特産加工品の登場	
9) 今後の新しい展開・取組み	農産物共同直売所施設の建設に向けて、月2回野菜の展示即売会を開催 安全・安心な農産物の生産・提供に向け、「JA東京グループ生産履歴記帳システム」の活用による取り組みを実施	・栄養士の先生による講演会などは行っていきたい	

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(5-2.活力と魅力あるまちづくり)

産業全般(2)		
	東京みらい農業協同組合保谷支店	農業体験農園「きたっばら」
10)西東京市への期待と注文		<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食の仕組みづくり/地場産率のアップ 食育につながっていくと思う ・直売所(1公民館、あるいは学校単位に1つくらい・小規模でよいと思う) ・緑を守るため、都市計画の中で地域ごとにどこに残すかを考える (一農家ごとに守るのではなく) 市が農地を守るべき時期にきているのでは ・マンション建設時の小さい公園などはつくり、貯めておき、ある程度の大きさ(広さ)として確保(まとまった生産緑地などで確保するのでもいい) ・市が所有していない公園も数多くあり、将来的に持続されていくか疑問である。
総括)重要視しているポイント	農業が継続できるようにしていく施策。働く場(畑)をいかに守っていくか、そのための経済的な支援や法規制を含めた農業、農家への支援が必要でないか	農家が、農地を守り続けていける環境作りが重要。それには緑や食などを通して、市民の人と交流し理解、発展させる場や仕組みづくりが重要。

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(5-3.活力と魅力あるまちづくり)

産業全般 (3)			
	SiGE	アルファテック株式会社	株式会社 小堀建築設計事務所
1) 主な事業や活動内容	活動エリア: 全国 主な事業: システム設計・開発(従業員数2名)	活動エリア: 教育事業部: 東京都全域 / クラウド事業部: 国内全域 活動内容: 教育事業部: 教育用システムの提案・導入・メンテナンス・運用支援 都立高校のCALL教室 導入シェア...40% クラウド事業部: クラウドサービスの提案(5年前から) Web会議システム、文章暗号化システム USBセキュリティシステム、営業支援システム 年2回、展示会でPRを行っている	活動エリア: 西東京市を中心に近隣都市 (小平、東久留米、小金井、練馬、杉並等) 活動内容: 戸建住宅、共同住宅はもとより、学生会館、幼稚園、店舗、銀行等の事務所建築、学校等の教育施設や福祉施設、東京消防庁等の公共建築物の設計・監理 その他、土地の収益増加から、節税効果、相続対策、将来の安定収入までの長期的な観点から、土地の有効活用等コンサルティングを行っている。
2) 良い点・改善が必要な点	良い点: 九州や北海道にも顧客があり、顧客への移動が半日で可能です。交通が便利であることが大きな利点です。 (トラブルがあって半日で行けないと仕事にならない) 改善が必要な点: ・ターゲット市場と考えていた中小企業のIT化導入意欲が高まることなく、近傍に顧客が少ない。 ・またそのため、同地域内に顧客・同業者が少なく、技術動向や最新技術などのスピーディな情報収集が容易ではない	良い点: 交通の便が良い (当社のすぐ前にバス停留所があり、5分おきに運転。武蔵境駅まで10分弱で到着。新宿まで20分~都庁棟まで40分位でアクセス可能) 武蔵境の踏切付近の渋滞緩和、間もなくできる「調布・保谷道路」等の道路交通環境 それでいて、自然が十分にあり、非常に良い環境である 改善が必要な点: 教育施設については、力をいれているのにPRが足りないのでは 高学歴者がうつになりやすい(管理しやすいことを強要する社会が原因なのか)	良い点: 実父が建設業を営み、自身も生まれ育った田無であるので、地域とのネットワークがあり、事業はやりやすかった(建築は信頼関係がないと頼めない) 職住近接や都心までのアクセス利便性も利点 改善が必要な点: 立地上でのデメリットは感じたことはない。 現在の事務所は併用住宅で、いずれは建築事務所らしい建物に改築できたら
3) 現状認識・対応	市内中小商工業者の様子から時代の変化に対する認識があるようには感じられない。旧来の事業形態は変化に対応しきれず、事業は急激に衰退するので、早急な対応が必要と考えている。しかし、他の収入源を有する市内中小商工業者にとって、事業の衰退が切実かどうかは不明。	新しいものに、どうしても関心が集まるのですが、新しいものだけがすべてではなく、既存の技術も常に念頭に行動し続けることを念頭に30年会社運営を行ってきた(守ろうとしていること...従来の技術・従来の業務パターンは、なるべく継続すること)	社会情勢や諸制度が目まぐるしく変革・変遷して中で、時代が求める「建築」に充分応えられるよう自己研鑽を積み、地域社会へ貢献していくことが使命と考える ・少子化対策改善と高齢者に対する支援 耐震化の問題への対応
4) 活動運営の課題	市内中小の商工業者の事業継続のためには、理念・展望・計画という本来の経営機能の構築が欠くべからざる課題と考えている。その為の人材確保やIT化などの対策が早急に必要と考えます。(いわゆる経営のプロフェッショナルが少ない 感で仕事をしているのでは)	当社は「ブランドイメージを今後どのように構築するか」について取り組んでいる 特にクラウドシステムサービスの事業においては重要であると考えている	東日本大震災や長期にわたる円高等、大変厳しい経営環境の中で、如何に社会に求められる事務所にすべきか模索中。また、後継者問題を真剣に考えねばと考えている。
5) 市のまちづくりに関する認識・課題	まちづくりについて、現状を知りませんでした。また、個人的には合併して10年の変化に気づきませんでしたし、市内中小商工業者に変化があったように感じられません。 (昨年まで商工会に属していた)	合併当時は、かなりいざこざがありました。何かが出きるという夢があったような気がする。10年がたち、パワフルな面が感じられず、住民も市の活動も老いていっているような感じを受けている。	耐震化100パーセントプロジェクトの推進。(防災まちづくり、幼児から大人までの防災教育) 少子高齢化時代に、高齢者が安心して暮らせる住宅の確保 (「サービス付高齢者向け住宅」の展開との協働による整備) 旧青梅街道(開削406年)のにぎわいの復活、活性化(シャッター道路になっている) 東伏見公園内(13.8ha)に高校野球地区予選会が出来るような野球場を! 等々
6) 地域活性化に関する市政運営	[市として力点を置くべき点は] ・商店街の再生なくして地域の活性化なしと考える ・中小工業の再生なくして地域の活性化なしと考える [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 具体的なイメージはないが、実質的な魅力づくりを期待する。そのためには、真の意味での「強み」の発見、あるいは「強み」開発からの出発を期待する。 (かけ声だけで動く市民はいないので、本質が問われている) [活用すべき資源やPRできる点] 一般的には要素としては下記等があるが、いずれもインパクトに欠ける 都心に近い 歴史ある商店街 数多い中小工業事業所 具体的な市の方針については、何がいいかはわかりません。ただ、海外では、ある大学を核に考えてそれを発端にうまく動いた例というのもあり、その切り口を考える事が大切	[市として力点を置くべき点は] すべての財源は、税収人にあり、市内の企業といかにコラボレーションを探っていくのが最大の課題である [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 都会のイメージの中にも緑が多い地域だと感じている。 緑が生んだ緑が似合う「ニシトウキョウ・グリーンシティ」等のPR... [活用すべき資源やPRできる点] 「ドラエモン」効果が狙える最後の時期だと思う(すでに、「トヨタ」が利用)	[市として力点を置くべき点は] 5)を参照(特に旧青梅街道の活性化や耐震化100%プロジェクト) [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] ・旧青梅街道の活性化の為、人々が安心して楽しくショッピングや通行ができる街並みに(地区計画の実施、商店街整備と合わせて歩道の整備、無電柱化、緑化、店舗の1階部分の壁面後退 など) ・都市計画道路3.4.10号線は桜並木の名所と四季折々の花と緑の街並みに [活用すべき資源やPRできる点] 旧青梅街道の復活には、由緒ある田無総持寺や田無神社などの資源を活用 [その他] 地域の緑を育成支援する手法として、農産物の育成販売、地域物産の育成販売場を含めた、「道の駅」などの市民の交流の場を提供 この原動力は、地権者の気持ちを変えていくことが必要(高齢の地権者はもう俺たちの時代じゃないよと諦めている)。話し合える場をつくる市の役割は大きい
7) 市との関係(支援や連携等)	これから真剣に考えさせてもらいます。 現在の世の中での状況をみると、平板化(横に並んでいく感じ)とグローバル化(業際化~仕事の際がなくなり、つながっていく)の2つあるのか、この2つを考えるとコラボレーションが重要なキーワードかなと思う。 グローバル化(業際化)を考えてみては、「西東京市だけではないよ」という考え方もあるので、小平や清瀬と協力してみるのも良いのでは。(小金井のゴミ問題もそう、建設業界もそう、自分1人ではできないことは限られている)	企業としては、非常に難しい問題であると感じている。	公共施設の設計・監理

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(5・3・活力と魅力あるまちづくり)

産業全般 (3)			
	SiGE	アルファテック株式会社	株式会社 小堀建築設計事務所
8)他の企業や団体との協働・連携	<p>[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] これまで市内の他の企業などとの協働・連携について考えていませんでしたが、連携の重要性を実感している。</p> <p>[今後の可能性] 調査し、検討したい</p>	<p>[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 企業としては、非常に難しい問題であると感じている。</p>	<p>[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 我々建築家は、周辺地域の安全性向上やより良い景観づくりを心がける社会的な責任がある。また、建設過程から使用開始後の自然環境に対する負荷を極力減らすと共に、耐久性の高い建築物を設計する責任があると自覚した上で仕事を進めていく</p> <p>[今後の可能性] 所属している(社)日本建築家協会(登録建築家)、(社)東京建築士会、(社)東京都建築士事務所協会の会員として、各会からの情報や新しい技術を修得し、高い職業倫理感をもって事業に専念したい。</p>
9)今後の新しい展開・取組み	<p>数年前から規模の大きな企業へターゲット市場をシフトして活動を開始。しかし、中小企業のIT化導入意欲が高まる期待さえあれば、起業の目的であった中小企業のITサービスに再挑戦したい。</p>	<p>最近5年間で、第三者認証[ISMS][ISO20000][事業継続]の認証を受けた。今後は、社内規定を生かし事業運営のプロセスとプロセスの間の「インプット」と「アウトプット」を明確に確認しながら、従業員が業務を遂行できるようにしていく</p>	<p>人材の育成をはかりつつ、異業種との交流や、同業他社との連携を深めながら必要な技術や情報をいち早くとらえ、自社の業務の質を深めていく</p>
10)西東京市への期待と注文	<p>商店街の再生、再構築 / 中小工業の再生、再構築 安全/安心とは何か(常に知っている人が話し合うこと、これを是非やるべきである)</p>	<p>開催規模が大きい展示会に市内企業が出店する場合に、西東京市をPRすることを条件に補助金を市が支出し、前向きな企業を育てたり、誘致するなどしたらどうか。(期間限定の優遇・市内の既存同業企業に公平性が欠けるなどの影響がない条件)シャープ/亀山、シチズン/西東京というものがあってほしい。スローガンというものが大切 IPADは、まだ学校レベルでは実験ですが、数年後には入ってくるのではないかと、クラウドも同様である(クラウドは1市のレベルではなく、いくつかの市町が合わせて使うものか)</p>	<p>5)と、特に旧青梅街道の活性化や耐震化100%プロジェクト「サービス付き高齢者向け住宅」への取り組み 入札の指名業者については、地元業者を優先的に参加。また、入札価格については、最低価格を設定してほしい(特に建築設計について)</p>
総括)重要視しているポイント	<p>市の計画の中に、経営の理念・展望・計画のセオリーを入れて、戦略的にまちづくりを進めていくべきである。その柱として、コラボレーションという手法があり、市を超えた枠の中で考えてみることも必要では。</p>	<p>西東京市はこれだという方向を打ち出し、これを軸にまちづくりを行っていくことが好ましい。</p>	<p>旧青梅街道の活性化や耐震化100%プロジェクトの推進。特にモデルとして、道の駅や商店街のまち並み形成と合わせた大胆な取り組みをして欲しい。</p>

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(6-1.協働で拓くまちづくり)

		市民参加 / 行政経営(1)	
		公益社団法人 西東京市シルバー人材センター	株式会社 エフエム西東京
1) 主な事業や活動内容	活動エリア: 西東京市全域(1,363人・2012年1月1日時点) 活動内容: (数値は平成22年度) 公共請負事業(放置自転車整理・自転車保管所管理業務・公園管理業務・学校交通擁護・学校校地内外清掃・学校環境整備業務・学校施設管理業務・市広報配布業務・保育園清掃業務) 延実人員19,754人 契約金額 約3億1千万円 約60% 民間事業(一般企業事務・マンション管理業務・植木ノふすま張り替え他) 延実人員15,698人 契約金額 2億6百万円 約40% 家事援助事業(リサイクル家具頒布・女性工房・リフォーム・学習教室・各種教室) その他: 社会奉仕活動(地域合同パトロール・美化統一キャンペーン・学童交通擁護防犯ボランティア・踏切事故防止ボランティア・東日本大震災救援物資受付等) 生活支援の業務に力を入れ始めている	活動エリア: 西東京市(周辺)を中心とするエリア(放送エリア内35万~40万人) インターネットでも放送を流しているのどこでも視聴可能、活動範囲も広がっている。 活動内容: 活動スタッフ100人以上(有償、無償合わせて) ・コミュニティFM放送局、ラジオ放送及び関連する事業、イベント、書籍・CD制作その他 ・西東京市と防災協定を結び「グラッと来たら84.2」という事で防災情報、災害情報の発信 ・この街の情報の発信、人の紹介、さらにその人をリアルにつなげていく役割。 その他、地域とのつながりを持てる様々な活動、震災支援でラジオを集めて送る、義援金を集めるなどの活動	
2) 良い点・改善が必要な点	良い点: 近隣市と比べて公共事業の受注が多く、就業率の安定化が図られている(行政の一定理解が得られている点)	良い点: 都心へ便利な立地にも関わらず、緑が多く住環境に恵まれている。 活動的な市民の方が多い。 改善が必要な点: ・公共交通機関の整備、狭い道路の改善(人や自転車が安心して通れる)。 ・西武鉄道沿線全体のイメージアップ。 ・市民、企業、団体その他の横のつながりを高める。(行政が対話の場を増やす) ・街としての特色を出す。 ・行政同士の横のつながりを高める。(もっと生活感に合うように。) 小平市の良さ(パワー、一体感)を感じたのは、FC東京への支援で、市長~職員みんながユニホームをつくって応援	
3) 現状認識・対応	高齢者を取り巻く厳しい状況から、就業目的として入会する会員も増加が見込まれ、センターがセーフティネット化することが予測される(本センターの趣旨を理解してもらい、ワークシェアや就業5年制度を導入)。 今後はさらなる就業開拓が必要となってくる。 ・大工仕事など減り、内容が変わってきた。また指定管理者制度の導入で仕事が減ってきた。 ・子育て支援も今後必要になってくるのでは。	常に変化に対応。ただその中で良いものを改善しながら残していくという視点を持つ。 ・グローバル化だとしても、ここのローカルではどうなのかという事を常に忘れない ・働き方、生活の方法など本質的なものを伝えていく。 ・率先して新しいラジオの形を求めていく。(インターネットで聞けるようになり、ツイッターやユーストリームなどとの連動のように新しいラジオに変化している)	
4) 活動運営の課題	・補助金の削減や契約件数の減少から事業収入の増額が見込まれない中、創意工夫をし事業収入に導くように、顧客満足度の調査を実施する予定。 ・政策的随意契約を行政への働きかけ、理解を求めている。 ・会員の資質向上のため、研修の強化やOJTの継続的実施。	・音声メディアとしてのラジオだが、もっとビジュアル化して見える存在になり、より多くの人に活用してもらえるようになる。(ラジオのイメージを変えていく、収入の確保の課題解決) ・新しいラジオとして、普通の方の想像外の活動を実践、それをもっとわかっていただく事。	
5) 市のまちづくりに関する認識・課題	○高齢者のいきがいくりの充実 シルバー人材センターの活用をさらに拡充できる施策の展開 ○健康づくりの支援 元気な高齢者の団体として維持することは、介護保険の負担軽減及び医療費の軽減にもつながるため、健康講座の実施等センターへの支援をお願いしたい。	合併の良さが出せていない。行政として、ひとつにまとめようと無理をしている。もっと西東京市の独自性を打ち出せば良い(何でも市役所がすべてコントロールしようとする必要はない) ・市外から人が訪れたいようなイベントや街づくりをする。 ・そのためにはこの街にある資源(人、企業、自然、文化)を見つけて、活用していく。 ・企業との提携や市民との協働など、市役所以外の資源との連携を図る。 子育てサラリーマン世代や働き盛りの人が安心して生活出来、誇りを持って西東京市民だと言えるまちになって欲しい。	
6) 地域活性化に関する市政運営	[市として力点を置くべき点は] 高齢者対策(生き生きと暮らせるまちづくり) [活用すべき資源やPRできる点] 高齢者パワー	[市として力点を置くべき点は] ・市内外の企業ともしっかりコミュニケーションを図る。市民との協働をもっと増やす。 ・東大農場や早稲田大学、シチズンなどの活かし方。 ・市内のどこかに焦点を当て、外から人が来たい場所として重点エリアにする [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] ・東大農場を活用して、外部からこの街に人が来たい仕掛けを作る。 ・田無駅から東大農場までのエリアを回遊、散策出来るように個人店や遊歩道、ベンチや小さな公園などを配置しネットワーク化(さらにひばりヶ丘まで、また、田無駅南口から小金井公園も散策路を整備) [活用すべき資源やPRできる点] ・田無駅周辺の線路沿いを活用。(電車から見えて田無駅で降りたくなるような店舗街を) ・田無駅に特急が停車して、外部から人が来やすいように働きかける ・世界企業としてのシチズン本社がある場所として相応しいイメージ作り ・先端企業、ソフトウェア会社などに補助をしてSOHO作り(例・三鷹産業プラザ) ・小規模アニメ制作会社勤務者への支援システム。	

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(6・1.協働で拓くまちづくり)

		市民参加 / 行政経営(1)	
		公益社団法人 西東京市シルバー人材センター	株式会社 エフエム西東京
7) 市との関係 (支援や連携等)	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの地域貢献活動の提供による市民との連携(地域班活動) ・高齢者への就業の機会の支援 <p>独居老人対策で、ネッククーラーの配布を、7000人に対し半月で配った。地域に根ざした班組織をフル活動して、すべての家に確認しながら配った。(広報の配布も受託しているが、くまなく隅々まで配っている。民間ではできない)</p>	<p>西東京市からのお知らせを毎日放送している。</p> <p>今後例えば、職員研修としてのしゃべり方教室、時間外での職員との街づくり検討会、職員や小中学生のメディアリテラシー教育、全小学生のラジオ番組制作、中学生職場体験のリニューアル(全校一斉実施など)、災害時情報発信の連携。</p> <p>放送では、市関連の事業や市のビジョンや職員の想い、イベントの生中継や録音放送など(市報に掲載されている案件を扱うという原則を拡張、行政とラジオ(メディア)の新しい関係を創り出す)</p> <p>防災協定を結んでいるが、もっと緊密に市の防災の一翼としての役割を果たす。また、FM西東京の放送を活かした非常時自動起動ラジオの採用、市民への販売補助をする。</p>	
8) 他の企業や団体との協働・連携	<p>[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題]</p> <p>本センターの事業目的が基本的な考え</p> <p>連携における課題は高齢者ができる範囲の連携になると思われる。</p> <p>[これまでの実績や現況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政・警察との連携で地域合同パトロール・踏切事故防止ボランティア ・行政・老人会との連携で美化統一キャンペーン ・行政・社会福祉協議会との連携 東日本大震災救援物資受付等ボランティア ・行政から民生委員への情報提供として熱中症予防対策事業ネッククーラー配布事業 <p>[今後の可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政・社会福祉協議会と連携を取りながら、生活支援事業の展開 有償ボランティア活動 	<p>[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題]</p> <p>情報として紹介、ゲスト出演など実施しており、もっと活用してもらえ</p> <p>また、放送を通して、この街の新たな人のつながりを作り出す事をはじめている。(行政の方々も積極的に参加して欲しい)</p> <p>災害時に連携が出来るように、通常から連携をしていく。</p> <p>[これまでの実績や現況]</p> <p>毎日ゲスト出演、レポートで市内、周辺から生中継など実施。</p> <p>様々なイベントの運営、放送など実施。</p> <p>去年から交流会(「ロコらぼ」とネーミング)を実施。(市内の様々な職業や活動をしている方々が集まる会合)</p> <p>[今後の可能性]</p> <p>放送の番組づくりだけでなく、この街のメディアとしてより多くの連携が出来ると思う。(マスメディアとは違った役割)</p> <p>ソーシャルメディアとの連動。(一人ひとりの市民がつながる事でデジタルデバイドを解消してより安心出来る良い市民生活を)</p>	
9) 今後の新しい展開・取組み	生活支援事業への検討	<p>人のつながりを作っていく(そこからこの街がより住みやすく生き活きとした街になっていく)</p> <p>この街が安心安全な街になっていく(緊急時自動起動ラジオの導入)</p> <p>・発信する記事を集めるのが難しい部分もある。つながりの中で集めることは大切で、そういったつながりをつくって行かなければならない。</p> <p>・今、まちの外れに立地しているが、駅の近くにサテライトがあった方がいいと思っている。(検討はしている)</p>	
10) 西東京市への期待と注文	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者人口に対応する介護保険制度の充実と、高齢者の就業対策・支援 ・行政とのコラボによる有償ボランティアにおけるシルバー人材センターの活用 	<p>住んでいて良かったと言える街にしていく。という事を打ち出していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全な街にしていく / 生き活きとした街にしていく。 ・これからの生き方、働き方を提案し、実践していく。= 西東京スタイルの提案。(東大農場を活用して都市型農業のあり方、食糧生産、人がどう食べていくかなど他の街にはない資源がある、地球の中の西東京。) ・西東京市が先導していく(多摩東部の連携の中での西東京市という視点が欲しい) ・自分たちの街だと誇りを持って言える街にしていく / 引っ越して来なくなる街にする。 	
総括) 重要視しているポイント	高齢者のいきがづくり、健康維持とともに、地域に役立つ仕事をしていく事で成り立つ仕事で、地域に入りながら、変わりゆく社会、地域のニーズに沿った仕事をしていく。	西東京らしい特色を出したまちづくり。それには市内外の人や資源のつながりをつけ、交流しながら作り上げていくことが大切。そのつなぎ役として、エフエム西東京が役割の一端を担っていければよい。	

企業・団体アンケート・ヒアリングまとめ(6-2.協働で拓くまちづくり)

		市民参加 / 行政経営(2)	
		市民協働推進センター	市民協働推進センターセブロス
1) 主な事業や活動内容	活動エリア: 西東京市全域 活動内容: 市民活動や協働によるまちづくりの拠点として市民活動を幅広くサポートすることや様々な協働の形を生み出していくための諸活動 登録団体数: 82 NPO法の分類で半数(4.0ぐらい)が、子どもの健全育成、環境、まちづくりの3分野の団体	活動エリア: 西東京市全域 活動内容: ・NPOをまちにつくる(11団体つくった、これが必要だとか、つくりたいという意見があったときに支援) ・IT支援 パソコン講座の操作方法、なにができるかを教える ・文化/芸術の活動(コンサート、フリマの開催) ・メールを使った高齢者の見守り	活動エリア: 西東京市全域 活動内容: ・NPOをまちにつくる(11団体つくった、これが必要だとか、つくりたいという意見があったときに支援) ・IT支援 パソコン講座の操作方法、なにができるかを教える ・文化/芸術の活動(コンサート、フリマの開催) ・メールを使った高齢者の見守り
2) 良い点・改善が必要な点	良い点: 公的拠点として市民のあいだで高い社会的信頼が確保できている。 改善が必要な点: (仮称)「市民協働推進センター」に向けた提言書に謳われている“市民協働運営”がさらにしっかりと根付かせること。	良い点: 長期計画と書いてあることはすばらしい 改善が必要な点: 実際に長期計画ができていないのか、できていないのでは。(書いてあるのになぜ進まないのか、私にはわからない) ・どうやったらできるのかを考え、少しでも近づけることが必要 ・行政と一緒に、豊かな生活を送ってゆける社会をどうつくっていくかを考える必要がある	良い点: 長期計画と書いてあることはすばらしい 改善が必要な点: 実際に長期計画ができていないのか、できていないのでは。(書いてあるのになぜ進まないのか、私にはわからない) ・どうやったらできるのかを考え、少しでも近づけることが必要 ・行政と一緒に、豊かな生活を送ってゆける社会をどうつくっていくかを考える必要がある
3) 現状認識・対応	・少子高齢化の中で、「子育て・子育て」支援のために、子ども分野のネットワーク形成に力を入れている。(コラボはどちらかというに進んでいる方だと思っている) ・IT化の進展に伴い、市民活動団体のエンパワーメントのために、ソーシャルメディアの活用をはじめとするメディアリテラシーにも注力している。	・市民サービスを低下しないで、やるべきことをやっていただきたい ・NPO団体で、防災の分野がないので必要だと思っている。意識的につくっていかなければならない。 ・つくったら、同じ分野の人を集めて、つなぎ合わせていく必要があるのでは ・やるしかない。協働コミュニティ課に力を持たせて、横串しをさしてもらいたい	・市民サービスを低下しないで、やるべきことをやっていただきたい ・NPO団体で、防災の分野がないので必要だと思っている。意識的につくっていかなければならない。 ・つくったら、同じ分野の人を集めて、つなぎ合わせていく必要があるのでは ・やるしかない。協働コミュニティ課に力を持たせて、横串しをさしてもらいたい
4) 活動運営の課題	・センター設立後、「基礎固め」、「認知度の向上」、「利用促進」、「情報発信力の強化」に取り組んできており、さらに「本格的活動の展開」、「さらなる協働の推進」、「変化するニーズに応える多彩な活動」、「まちの課題解決」、「NPOのエンパワーメント」などに力を入れる。 ・協働事例集を作り公開することで、認知度を拡大するとともに市と市民活動団体をつなぐ取り組みを行っていく必要がある。	活動するためのお金が不足(2~3人の人がおけるくらい~ボランティアは限界がある)	活動するためのお金が不足(2~3人の人がおけるくらい~ボランティアは限界がある)
5) 市のまちづくりに関する認識・課題	まちづくりの課題認識においては、多様な関係者(ステークホルダー)による率直な意見交換をベースに情報共有化することが肝要と考える。 そこで、当センターでは、次年度以降の新規取り組みとして ・まちづくり円卓会議の開催 ・(多様な関係者の)スタッフ情報交換会の実施を予定している	合併して当初は特例債などがあったが、これから市民サービスがどうなるのか? ・市民はただ待っているわけではない。充足感があれば参加もするし、協力もする。これをいかして欲しい。	合併して当初は特例債などがあったが、これから市民サービスがどうなるのか? ・市民はただ待っているわけではない。充足感があれば参加もするし、協力もする。これをいかして欲しい。
6) 地域活性化に関する市政運営	[市として力点を置くべき点は] 若い子育て世代(30~40代)の大幅な人口流入を図り、人口構成の高年齢化を防ぎ、元気で活力のあるまちづくりを目指す。 [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] キャッチコピー “緑あふれる子育ての街、西東京!” [活用すべき資源やPRできる点] ・いこいの森公園や東大農場だけでなく、身近な公園などを大切に保全していくことと、「子育て」支援事業を有機的に結びつける工夫をすること ・「子育て」支援分野は、近隣他市に比して相対的に優位な状況にある	[市として力点を置くべき点は] 「都心から近い」ということをPRしたら [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 例えば体験農園をきっかけとして都心から人を呼び込むなど、西東京市の良さをPRしていくことを考えたらどうか。	[市として力点を置くべき点は] 「都心から近い」ということをPRしたら [市のイメージづくりや魅力づくりの視点やアイデア] 例えば体験農園をきっかけとして都心から人を呼び込むなど、西東京市の良さをPRしていくことを考えたらどうか。
7) 市との関係(支援や連携等)	上記「緑あふれる子育ての街、西東京!」の推進にあたっては、 ・両分野の市民活動団体と行政の連携に配慮して ・市民参加によるまちづくりを訴求していくことがなによりも重要と考える	・農家に来た人のコミュニティをどうつくるか(それを、農家の奥さんでも、行政でも、市民団体でもやればいい) ・市民に提案を求めて、それを事業にして任せてしまう。そういう仕組みをつくる	・農家に来た人のコミュニティをどうつくるか(それを、農家の奥さんでも、行政でも、市民団体でもやればいい) ・市民に提案を求めて、それを事業にして任せてしまう。そういう仕組みをつくる
8) 他の企業や団体との協働・連携	[貴社(貴団体)の基本的な考え方及び連携等における課題] 市民活動団体と行政、さらには企業、大学などの連携推進に向けて、鋭意取り組んでいるところであるが、有能なスタッフの確保など人材や予算面の配慮が望まれる。 [これまでの実績や現況] 直近の取り組みを紹介すると ・1/27 「行政職員と市民活動団体との懇親会」(市民20名、行政職員11名参加) ・2/12 「NPO市民活動フェスティバル」 ・2/15 「協働を考えるシンポジウム」(市民28名、行政や市民含め20名参加) [今後の可能性]		
9) 今後の新しい展開・取り組み	・話し合うこと、知恵を絞り出すことが大切。これを今年度から進めていく。 ・NPOはテーマ型組織と、支援型組織がある、これをうまく組み合わせよう(まちづくり円卓会議のようなもの)。 ・協働推進のための研究会を立ち上げて、先進都市の調査などを行いたい。	NPO団体で、防災の分野がないので必要だと思っている。意識的につくっていかなければならない。	NPO団体で、防災の分野がないので必要だと思っている。意識的につくっていかなければならない。
10) 西東京市への期待と注文		・農地を残すような方策を考えて欲しい ・やっている人をバックアップする姿を見せて、まわりの人にもできるかもしれないと思わせる ・「体験農園の提案」の話を産業振興課に持っていったも、「協働の話」はコミュニティ課ということになる。温度差を感じる。(市民の方を向いていない) ・協働を行うにあたって、人でなく、システムとしての仕組みを徹底してもらいたい(ここに行けば、必ずこのように動く)	・農地を残すような方策を考えて欲しい ・やっている人をバックアップする姿を見せて、まわりの人にもできるかもしれないと思わせる ・「体験農園の提案」の話を産業振興課に持っていったも、「協働の話」はコミュニティ課ということになる。温度差を感じる。(市民の方を向いていない) ・協働を行うにあたって、人でなく、システムとしての仕組みを徹底してもらいたい(ここに行けば、必ずこのように動く)
総括) 重要視しているポイント	さらなる協働の推進に向けて、「まちの課題解決」のための意見交換や情報共有化の場を設けて、つながりをつくり、市民参加によるまちづくりを推進する。	協働を行うにあたって、具体的に動ける仕組みをつくってもらいたい(人でなく、システムとして徹底してもらいたい)	協働を行うにあたって、具体的に動ける仕組みをつくってもらいたい(人でなく、システムとして徹底してもらいたい)